

# 淀川水系流域委員会

## 平成26年度進捗点検結果説明資料 【治水(木津川)】

平成27年11月17日

近畿地方整備局

# 平成27年度 第1回淀川水系流域委員会 説明資料【治水(木津川)】

点検項目	観 点	指 標	平成26年度 進捗	本文頁	
1	危機管理体制の構築	災害体験者からの災害状況の聞き取り及びその情報発信内容	有り	P.192	
2		自治体、水防団、マスメディア等との情報共有化のための情報伝達体制の基盤整備内容・情報共有団体数	進捗無し (人川と重複)	P.194	
3		ハザードマップ作成内容・作成済み市町村数	完了	P.198	
4		まるとまちごとハザードマップ、浸水実績及び想定表示看板設置内容・設置数	有り (人川と重複)	P.199	
5		災害時要援護者に配慮した避難勧告・指示の発令基準の明確化及び周知体制整備の内容	有り	P.201	
6		地下空間の利用者及び管理者への情報伝達体制整備内容	該当無し	P.203	
7		水防団の高齢化に対する支援の内容・講演、出前講座実施回数	有り	P.205	
8		水防拠点整備の内容・箇所数	進捗無し	P.208	
9		公共施設の耐水化の内容	進捗無し	P.209	
10		災害対応プログラムの作成内容	有り	P.210	
11		水害に強い地域づくり協議会実施内容・開催回数	有り (人川と重複)	P.212	
12		河川に集中させてきた洪水エネルギーの抑制 /分散対策の実施状況	流域における保水・貯留機能確保の内容・貯留量	該当無し	P.216
13			洪水氾濫時被害軽減のための土地利用規制・誘導施策の内容	該当無し	P.218
14			河川整備計画と都市計画との調整の内容	該当無し	P.219
15	堤防強化の実施	HWL以下、浸透、浸食対策実施内容・延長	有り	P.222	
16		堤防天端以下、浸食対策実施内容・延長	有り	P.224	
17		堤防天端舗装実施内容・延長	有り	P.225	
18		側帯整備実施内容・延長	進捗無し	P.226	
19	川の中で洪水を安全 に流下させるための 対策	上下流バランスの状況	実績降雨、計画規模降雨における上下流水位の変化内容	有り	P.230
20		河道流下能力の増大、洪水調節の効果的な実施による洪水位の低減状況	実績降雨、計画規模降雨における越水及びHWL超過内容・超過延長	有り	P.236
21			新設ダムの効果内容・洪水位低下量	進捗無し	P.238
22	高規格堤防の整備	ハードによる超過洪水対策の実施状況	高規格堤防の整備内容・延長	該当無し (人川と重複)	P.239
23	土砂対策	土砂移動抑制策(砂防堰堤、山腹工)の実施内容・箇所数	有り	P.245	
24		土砂移動の制御の実施状況	土砂を下流へ流すことができる砂防えん堤の設置内容・設置数(砂防施設)	有り (河川環境と重複)	P.247
25		流域の土砂生産・移動・堆積の実態把握状況	河床変動等の土砂動態モニタリング、総合土砂管理方策の検討内容(既設ダム)	有り (河川環境と重複)	P.249
26	既設ダム等の運用	河道流下能力の増大、洪水調節の効果的な実施による洪水位の低減状況	既設ダムの効果内容・洪水位低下量	有り	P.254

# 平成27年度 第1回淀川水系流域委員会 説明資料【治水(木津川)】

	点検項目	観 点	指 標	平成26年度 進捗	本文頁
27	高潮対策	高潮被害軽減策の実施状況	橋梁の嵩上げ内容・箇所数	該当無し	P.260
28			陸閘操作の改善内容・箇所数	該当無し (重複)	P.261
29	地震・津波対策	地震対策事業の実施状況	河川管理施設の耐震対策実施内容・箇所数	進捗無し	P.264
30			緊急用河川敷道路の整備内容・延長	有り	P.266
31		津波対策事業の実施状況	津波ハザードマップ作成支援内容・作成市町村数	該当無し	P.268
32			津波情報提供設備の設置内容・設置数	該当無し	P.270
33			陸閘操作の改善内容・箇所数	該当無し (重複)	P.271

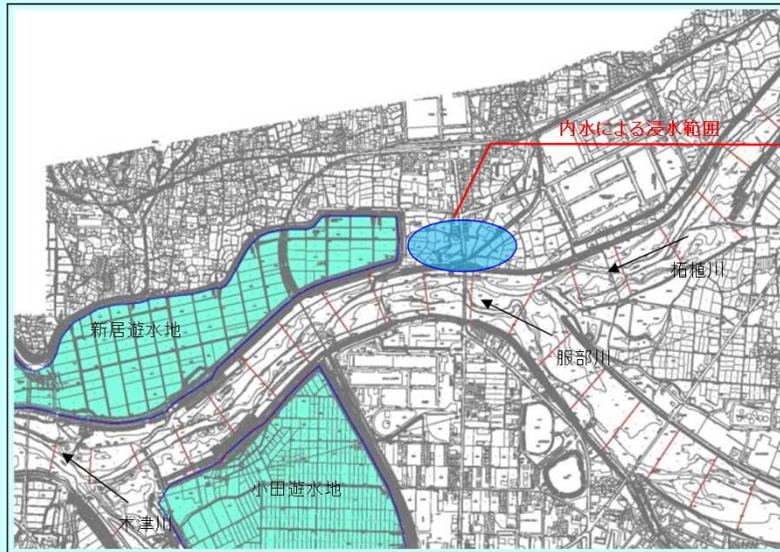
危機管理体制の構築

【観点】破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の整備状況

「指標」災害体験者からの災害状況の聞き取り及びその情報発信内容

【木津川上流河川事務所】

木津川上流河川事務所では、平成26年台風11号での三田地区における浸水状況とその対応等について、伊賀市と密な情報交換を行った。



木津川上流河川事務所 平成26年台風11号による出水概要  
[http://www.kkr.mlit.go.jp/kizujyo/news/more.php?info\\_id=284](http://www.kkr.mlit.go.jp/kizujyo/news/more.php?info_id=284)

進捗状況	点検結果
<p>(平成26年度の取組)</p> <p>淀川河川事務所では、平成26年台風11号の被災状況等の情報について、水害に強い地域づくり協議会等を通じて自治体から収集を行った。</p> <p>木津川上流河川事務所では、平成26年台風11号の被災状況等の情報について、自治体から情報の収集を行った。</p>	<p>平成26年度は災害状況の聞き取りにより当時の浸水状況を確認し、聞き取り調査を踏まえた浸水被害の検証結果については自治体等と情報共有を行った。</p> <p>また、出水状況についてHPに掲載するなど、情報発信に努めている。</p> <p>今後も引き続き聞き取りの記録を活用するため聞き取り結果をわかりやすく表現し、地域と連携して啓発活動を進めていく必要がある。</p>

危機管理体制の構築

【観点】破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の整備状況

「指標」自治体、水防団、マスメディア等との情報共有化のための情報伝達体制の基盤整備内容・情報共有団体数(人川と指標が重複)

既存の情報基盤機器の老朽化等のため、その更新等を優先したことから、平成26年度は木津川では進捗が無かった。ただし、これまでの整備により木津川では8自治体に情報提供を実施している。

【情報伝達体制状況】

【水系全体】

淀川・琵琶湖・猪名川・木津川上流の4事務所では光ファイバー等による情報提供を50団体と行っている。また、主要な雨量・水位情報やライブ映像はインターネットによる提供も行っている。

有事の際、各自治体等への確実な情報伝達体制確立のため、光ファイバー等の接続による直接の情報伝達について、水害に強い地域づくり協議会等で呼びかけている。

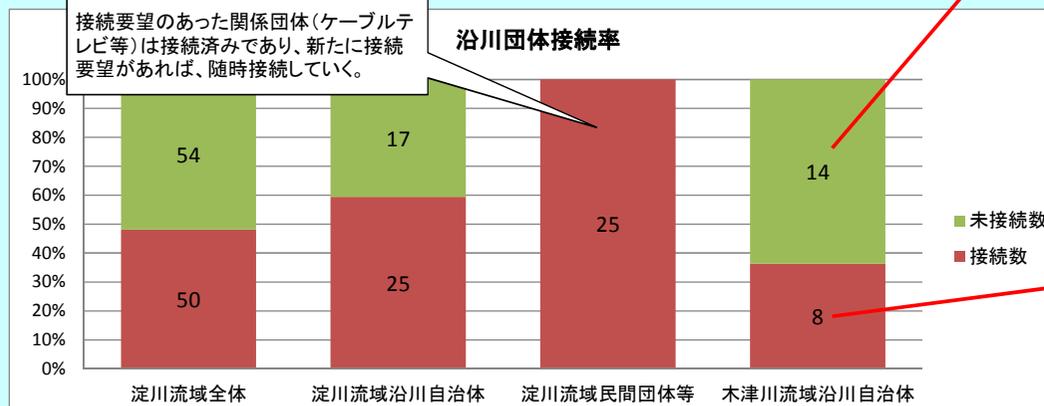
【木津川上流河川事務所】

木津川上流河川事務所では、地域住民、自治体、水防団等に分かりやすい河川情報の伝達手段として、地元ケーブルテレビ局を介して、より多くの人にリアルタイムな情報を伝えるために、河川の動画像の配信を行っている。

平成24年7月1日より伊賀上野ケーブルテレビ(株)のサービスエリア内に配信を行い、水防活動等においても役立てていただいている。

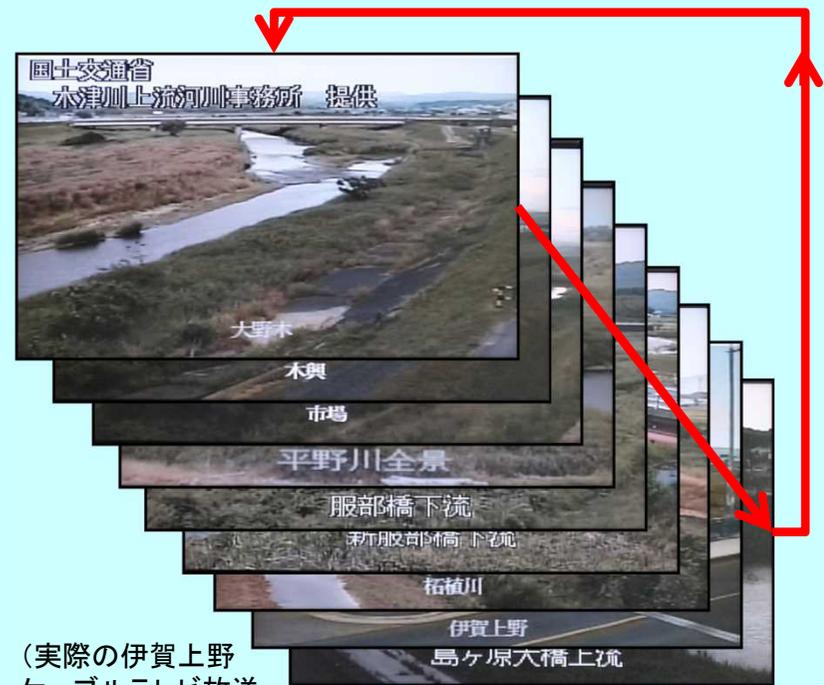


NHK情報提供画面(各河川水位データ表示)



- 笠置町
- 和束町
- 精華町
- 南山城村
- 伊賀市
- 名張市
- 津市
- 奈良市
- 天理市
- 生駒市
- 宇陀市
- 山添村
- 曾爾村
- 御杖村

- 京都府
- 城陽市
- 八幡市
- 京田辺市
- 木津川市
- 久御山町
- 井手町
- 奈良県



(実際の伊賀上野ケーブルテレビ放送映像)⇒

危機管理体制の構築

【観点】破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の整備状況

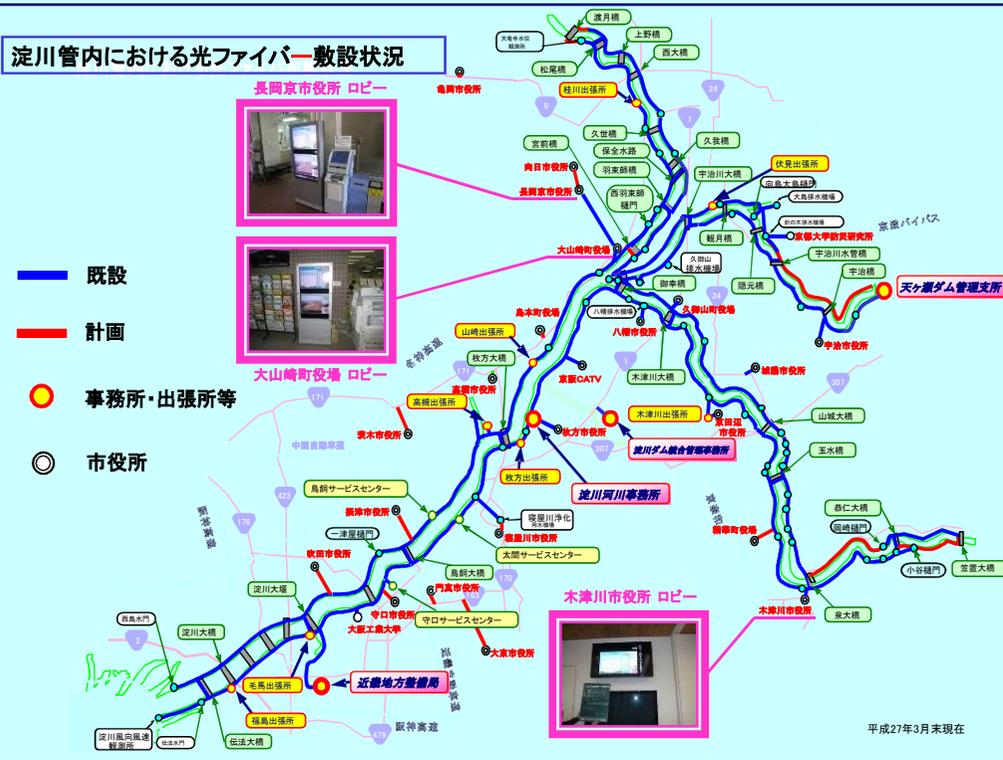
「指標」自治体、水防団、マスメディア等との情報共有化のための情報伝達体制の基盤整備内容・情報共有団体数(人川と指標が重複)

【光ファイバーを利用した地域情報ネットワーク】

【淀川河川事務所】

淀川河川事務所と自治体等の関係機関との間に独自に光ファイバーを敷設し、河川情報、画像情報を提供している。

また、インターネットにおいても水位情報を提供し、自治体だけでなく、沿川住民の方々も活用できるサイトをホームページ上にも設置している。



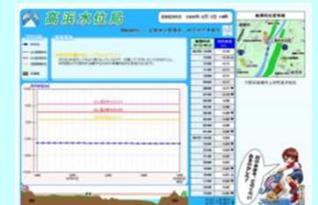
【防災担当者向け】

防災担当者が動画像を選択確認し、また、雨量、水位及び排水機場・樋門の内・外水位情報を把握することにより、自治体の水防活動に役立てていただく。



【一般住民向け】

自治体ごとに一般住民向けに情報提供する動画像地点や水位地点を予め設定しておき、自動スクロールで表示することにより、閲覧された一般住民の方々に水防への備えをしていただく。



【地域情報ネットワークによる情報共有状況】

- |  |  |
|--|--|
| ①宇治市 防災担当課端末 24時間、市役所ロビー端末 8:00~17:00  | ⑥木津川市 防災担当課端末 24時間、市役所ロビー端末 8:30~17:30 |
| ②城陽市 防災担当課端末 24時間                      | ⑦大山崎町 防災担当課端末 24時間、市役所ロビー端末 8:30~17:00 |
| ③長岡京市 防災担当課端末 24時間、市役所ロビー端末 8:30~17:15 | ⑧久御山町 防災担当課端末 24時間                     |
| ④八幡市 防災担当課端末 24時間、市役所ロビー端末 8:30~17:00  | ⑨井手町 防災担当者端末 24時間                      |
| ⑤京田辺市 防災担当課端末 24時間                     | ⑩枚方市 防災担当者端末 24時間                      |

淀川河川事務所ホームページ <http://www.yodogawa.kkr.mlit.go.jp/live/index.php>

危機管理体制の構築

【観点】破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の整備状況

「指標」自治体、水防団、マスメディア等との情報共有化のための情報伝達体制の基盤整備内容・情報共有団体数(人川と指標が重複)

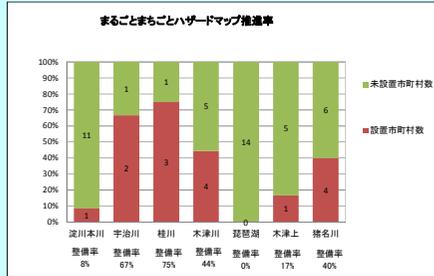
進捗状況	点検結果																		
<p>(平成26年度の実施)</p> <p>平成26年度は、新規に1団体(枚方市)へ情報提供を始めた。 平成26年度までの累計では、50団体と増加している。</p> <div data-bbox="320 485 745 815" data-label="Figure"> <table border="1"> <caption>情報提供団体数(累計)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>団体数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>34</td></tr> <tr><td>H20</td><td>43</td></tr> <tr><td>H21</td><td>44</td></tr> <tr><td>H22</td><td>45</td></tr> <tr><td>H23</td><td>47</td></tr> <tr><td>H24</td><td>48</td></tr> <tr><td>H25</td><td>49</td></tr> <tr><td>H26</td><td>50</td></tr> </tbody> </table> </div> <p>また、平常時から危機管理能力の向上を図るため、堤防の決壊を想定したシミュレーション訓練、総合防災演習及び陸閘の操作訓練を自治体や水防団と連携して実施した。</p> <p>自治体や水防団と水防連絡会を開催し、沿川の危険箇所や災害時の連絡体制等について情報交換を行った。</p> <p>点検項目「洪水・災害時の人と川とのつながりの構築」の[指標]自治体、水防団、マスメディア等との情報共有化のための情報伝達体制の基盤整備内容・情報共有団体数と重複掲載</p>	年度	団体数	H19	34	H20	43	H21	44	H22	45	H23	47	H24	48	H25	49	H26	50	<p>関係機関へ光ファイバー等を接続することにより、河川情報や画像情報を確実に提供でき、情報提供している団体数も増加している。 また、訓練や連絡会を通じて、関係機関との連携が図られている。</p> <p>今後も関係自治体等と連携してさらに避難体制の基盤整備の支援や情報共有の促進及び関係機関との連携に取り組んでいく。</p>
年度	団体数																		
H19	34																		
H20	43																		
H21	44																		
H22	45																		
H23	47																		
H24	48																		
H25	49																		
H26	50																		

危機管理体制の構築

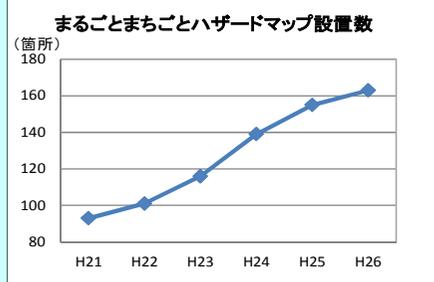
【観点】破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の整備状況

「指標」まるごとまちごとハザードマップ、浸水実績及び想定表示看板設置内容・設置数(人川と指標が重複)

【まるごとまちごとハザードマップ整備状況】



※水害に強い地域づくり協議会等に参画している市町村数で集計



【まるごとまちごとハザードマップ推進事例】

【淀川河川事務所】

平成26年度は、木津川沿川の京田辺市で4箇所まるごとまちごとハザードマップを設置した。



京田辺市 中部住民センター設置事例

京田辺市(草内地区、三野地区)では、まるごとまちごとハザードマップやマイ防災マップを作成しており、マイ防災マップ作成に取り組んだ自治会の参加者へのアンケートを行った結果、参加者の多くから防災意識の向上や水害への備えに役立ったと回答があり、住民の防災意識向上効果があったと考えている。

■地区の防災意識はあがるといいますか				
地区	あがると思う	変わらないと思う	わからない	無回答
草内	64%	9%	18%	9%
三野	90%	0%	10%	0%

■参加して水害に対する備えに役立ちましたか				
地区	役立った	どちらでもない	役立たなかった	無回答
草内	91%	0%	0%	9%
三野	100%	0%	0%	0%

参加者へのアンケート結果

【まるごとまちごとハザードマップ設定事例(伊賀市)】

【木津川上流河川事務所】

木津川上流河川事務所の水位、雨量等の防災情報配信サービスをQRコード付きで紹介

国土交通省木津川上流河川事務所では、災害から身を守るため、木津川上流地域の河川に関する「水位」、「雨量」、「ダム」、「気象」に関する情報の防災情報配信サービスを行っています。

■木津川上流河川事務所  
防災情報配信サービス(水位、雨量・気象情報等)

過去の浸水被害の浸水記録

- 昭和28年 9月 台風13号 2.52m
- 昭和34年 9月 伊勢湾台風 2.29m
- 昭和36年 10月 前線豪雨 2.14m

← 過去の浸水被害の浸水記録

伊賀市の警報、避難情報等の防災地緊急メール配信サービスをQRコード付きで紹介

伊賀市では、昨今の災害を教訓とし、警報や避難勧告などの災害に関する情報を迅速に市民の皆さんにお伝えするために災害時緊急メール配信サービスを行っています。

■伊賀市  
災害時緊急メール「あんしん・防災ねっと」  
(気象警報・避難情報)

伊賀 浸水の深さ示す表示板新調

「ドーナツ」も載せ、伊賀出身の俳人、松原蕉の雨にまつわる俳句も掲載した。

「一、二、四」を記した。携帯電話のカメラで小田町別の五百四、読み込もど、河川の水十が浸水した五年、位や雨量などわかる。河川事務所の防災情報は、災害で命を落とす区を示す地図も発行。配信サービスと、気象、すこやかなら、表水があふれた写真と、情報や避難情報伝える行動につなげてい載し、被害の深刻さを知らせるよう工夫し、が伝わるよう工夫し、が伝わるよう工夫し、

H26.3.29 中日新聞

危機管理体制の構築

【観点】破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の整備状況

「指標」まるごとまちごとハザードマップ、浸水実績及び想定表示看板設置内容・設置数(人川と指標が重複)

進捗状況	点検結果
<p>(平成26年度 of 取組)</p> <p>平成26年度は、大山崎町で4箇所、京田辺市で4箇所のまるごとまちごとハザードマップを設置した。平成26年度末時点の整備済箇所は以下のとおりである。</p> <p>浸水想定区域表示看板(25箇所) (大阪市、京都市等)</p> <p>まるごとまちごとハザードマップ(163箇所) (八幡市(4)、宇治市(70)、大山崎町(8)、長岡京市(6)、向日市(9)、久御山町(7)、摂津市(2)、城陽市(5)、京田辺市(4)、伊賀市(1)、尼崎市(9)、伊丹市(6)、池田市(5)、川西市(27))</p> <p>点検項目「洪水・災害時の人と川とのつながりの構築」の〔指標〕まるごとまちごとハザードマップ、浸水実績及び想定表示看板設置内容・設置数と重複掲載</p>	<p>万一の堤防決壊に備え、避難誘導と危機意識の醸成に資するため、まるごとまちごとハザードマップ及び浸水実績表示看板等の設置が進んでいる。</p> <p>今後も関係自治体と連携してさらにまるごとまちごとハザードマップ及び浸水実績表示看板等の設置を進めていく必要がある。</p>

危機管理体制の構築

【観点】破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の整備状況

「指標」災害時要援護者に配慮した避難勧告・指示の発令基準の明確化及び周知体制整備の内容

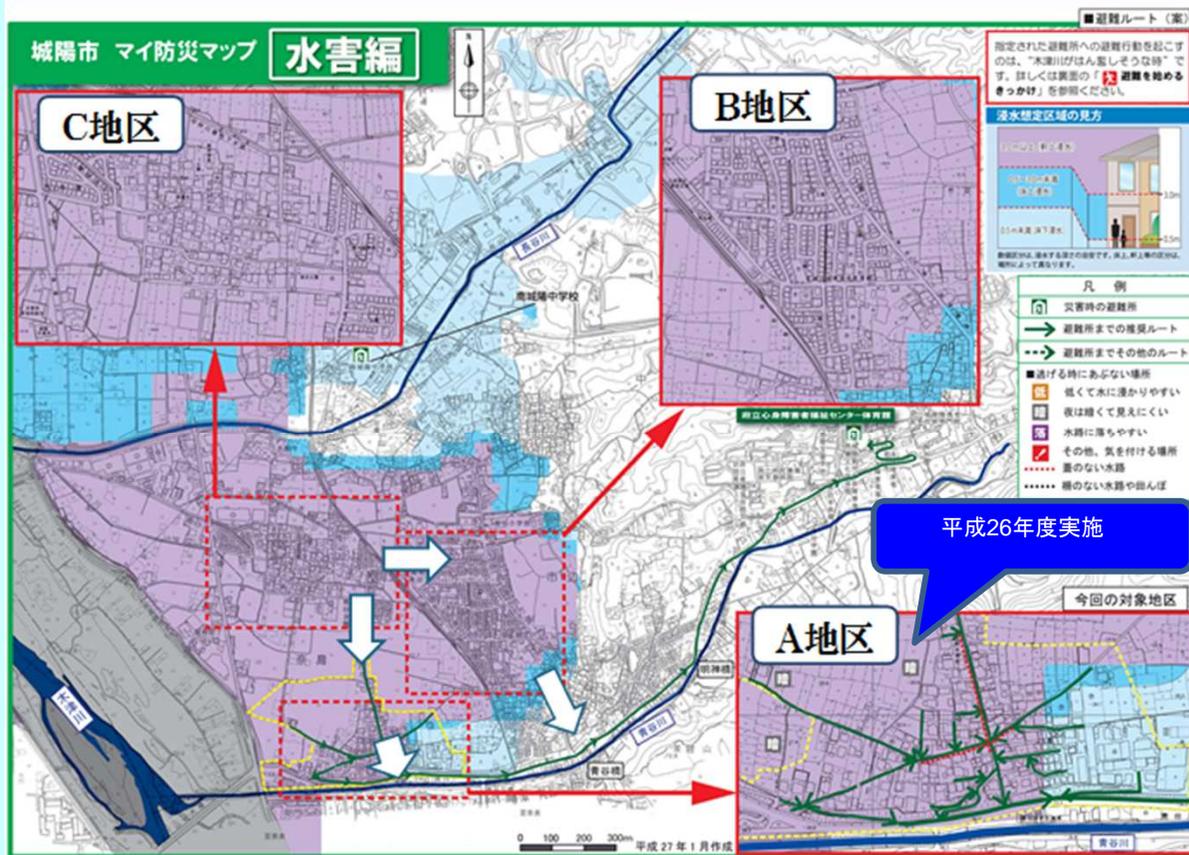
【マイ防災マップ等防災マップ作成マニュアルの作成状況】

【淀川河川事務所】

水害に強い地域づくり協議会においては、これまで自治会単位のマイ防災マップを実施してきたが、平成25年度は、マイ防災マップの手順書(案)の充実に向け、ケーススタディ地区として長岡京市(勝竜寺地区)、京田辺市(草内地区、三野地区)の3地区でマイ防災マップを作成した。平成26年度は、ケーススタディ地区として、城陽市の青谷校区にて地形特性、浸水特性、避難特性を考慮し、小学校単位の校区版のマイ防災マップの作成に向けた支援を行った。

なお、京田辺市において、西八区ならびに薪区でマイ防災マップの作成を行った。

また、水害に強い地域づくりに資する取組事例等を整理した住民の適切な避難に向けた「取組のポイント集」に優良事例の追加を行った。



マイ防災マップ作成事例:城陽市青谷校区



地域住民が参加した「マイ防災マップ」作成風景

京田辺市(草内地区、三野地区)では、まるごとまちごとハザードマップやマイ防災マップを作成しており、マイ防災マップ作成に取り組んだ自治会の参加者へのアンケートを行った結果、参加者の多くから防災意識の向上や水害への備えに役立ったと回答があり、住民の防災意識向上効果があったと考えている。

■地区の防災意識はあがるといえますか

地区	あがると思う	変わらないと思う	わからない	無回答
草内	64%	9%	18%	9%
三野	90%	0%	10%	0%

■参加して水害に対する備えに役立ちましたか

地区	役立った	どちらでもない	役立たなかった	無回答
草内	91%	0%	0%	9%
三野	100%	0%	0%	0%

参加者へのアンケート結果

## 危機管理体制の構築

【観点】破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の整備状況

「指標」災害時要援護者に配慮した避難勧告・指示の発令基準の明確化及び周知体制整備の内容

進捗状況	点検結果
<p>(平成26年度の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・淀川河川事務所管内においては、平成26年度は、住民の適切な避難行動の実現に向け、避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン(案)の改訂に伴う情報の更新と、避難勧告の発令に着目した河川管理者と自治体の連携強化を図った。(平成26年度 水害に強い地域づくり協議会)</li> <li>・琵琶湖河川事務所管内においては、平成26年度は、協議会を4回実施、担当者会議を3回実施し、避難勧告等の取り組みについて意見交換を行った。</li> <li>・猪名川河川事務所においては、平成26年11月に、猪名川・藻川直轄区間における洪水対応に関する意見交換会を実施し、避難勧告等の判断基準の見直しに向けた意見交換を行った。</li> </ul>	<p>水害に強い地域づくり協議会において、マニュアル作成に向けた検討を進めている。</p> <p>今後も関係自治体等と連携して、検討を進めていく。</p>

危機管理体制の構築

【観点】破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の整備状況

「指標」水防団の高齢化に対する支援の内容・講演、出前講座実施回数

【木津川上流河川事務所】

平成26年6月24日名張地区まちづくり推進協議会へ「防災に関する講演会」を1回実施した。

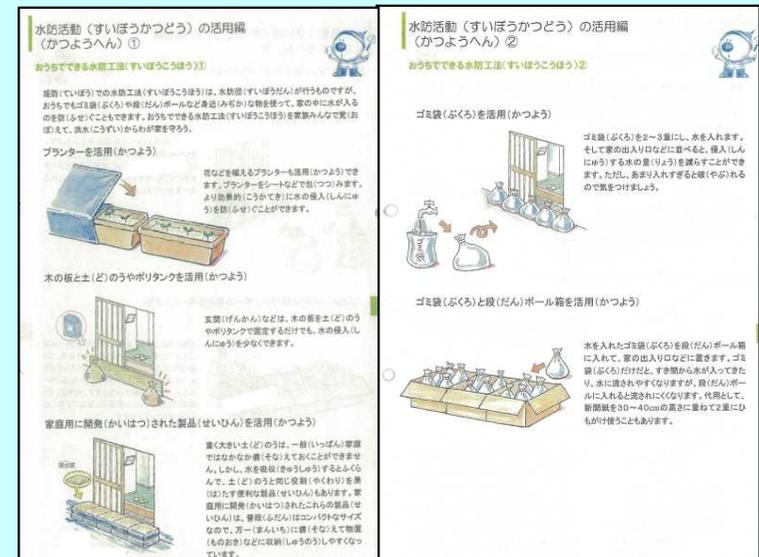
○出席者

- ・名張地区まちづくり推進協議会防災部会14名
  - ・名張市役所1名
  - ・木津川上流河川事務所5名
- 合計20名

災害時における避難の重要性や身近に出来る水防について説明し、その後の質疑応答では、「雨量と水位上昇の関連性」、「ダム の操作に関すること」、「避難勧告のタイミング」等多岐にわたる質問が数多く出され、風水害の基礎知識と日頃からの備え等について情報提供を行った。



名張地区まちづくり推進協議会

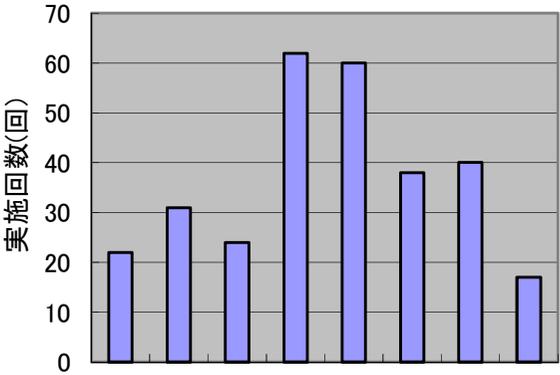


身近に出来る水防資料

危機管理体制の構築

【観点】破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の整備状況

「指標」水防団の高齢化に対する支援の内容・講演、出前講座実施回数

進捗状況	点検結果																		
<p>(平成26年度の取組) 平成26年度は、流域全体で水防団活動や水防工法に関する講演や出前講座を17回行った。</p> <div data-bbox="271 528 902 1042" style="text-align: center;"> <p>水防に関する講演・出前講座の実施回数</p>  <table border="1" data-bbox="302 598 862 973"> <caption>水防に関する講演・出前講座の実施回数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実施回数(回)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>22</td></tr> <tr><td>H20</td><td>31</td></tr> <tr><td>H21</td><td>24</td></tr> <tr><td>H22</td><td>63</td></tr> <tr><td>H23</td><td>60</td></tr> <tr><td>H24</td><td>38</td></tr> <tr><td>H25</td><td>40</td></tr> <tr><td>H26</td><td>17</td></tr> </tbody> </table> </div>	年度	実施回数(回)	H19	22	H20	31	H21	24	H22	63	H23	60	H24	38	H25	40	H26	17	<p>水防団活動及び水防技術に関する講演、レンジャー活動により、水防活動に対する意識啓発が進められている。 水防団員の高齢化等への対策の観点からも、さらなる普及に努めていく。</p>
年度	実施回数(回)																		
H19	22																		
H20	31																		
H21	24																		
H22	63																		
H23	60																		
H24	38																		
H25	40																		
H26	17																		

危機管理体制の構築

【観点】破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の整備状況

「指標」水防拠点整備の内容・箇所数

平成26年度は、木津川において、新たに整備した水防拠点等はない。ただし、木津川では、これまでに名張川河川防災ステーションや北河原水防拠点を整備している。

【木津川上流河川事務所】 名張川河川防災ステーション

名張川河川防災ステーションには、洪水や地震等により、周辺地域が被害にあった場合にも、市街地中枢の安全ゾーンとして、住民の避難などをスムーズに行う為に情報を発信したり、災害復旧活動を迅速に実施できる水防用資材を備蓄しており、洪水時に河川が氾濫した時でも、この場所では、対策本部を設置し、住民の生命や財産を守るため、また、堤防の決壊を防ぐための水防用土砂や備蓄資材置き場等の防災機能を備えている。



進捗状況	点検結果
<p>(平成26年度の取組) 平成26年度は、新たに整備した箇所は無し。</p>	<p>水防上の拠点については、河川防災ステーション全3箇所のうち、完成が2箇所、整備中が1箇所、また水防拠点全19箇所のうち、完成が2箇所となっている。 今後もさらなる整備に向けて地元調整等を図る。</p>

## 危機管理体制の構築

【観点】破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の整備状況

「指標」公共施設の耐水化の内容

平成26年度は木津川では進捗なし。ただし、平成24年度で、直轄管理区間に関連するハザードマップは作成済みで、各地域の浸水被害に対する危険度を示すなど洪水に関する情報を関係市町と共有している。

進捗状況	点検結果
<p>(平成26年度の取組) 平成26年度は、整備箇所は無し。</p>	<p>公共施設の耐水化については、地域としての取り組みが行われているが、さらなる取り組みの拡大が望まれるところである。</p>

危機管理体制の構築

【観点】破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の整備状況

「指標」災害対応プログラムの作成内容

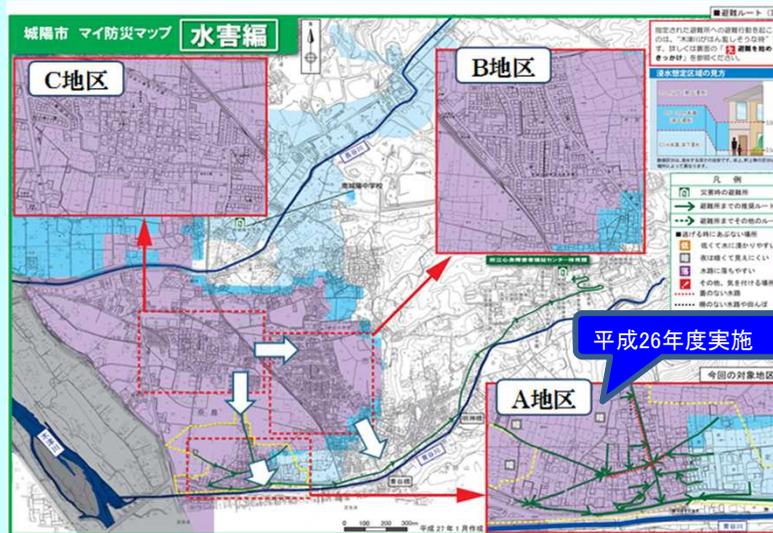
【マイ防災マップ等防災マップ作成マニュアルの作成状況】

【淀川河川事務所】

水害に強い地域づくり協議会においては、これまで自治会単位のマイ防災マップを実施してきたが、平成25年度は、マイ防災マップの手順書(案)の充実に向け、ケーススタディ地区として長岡京市(勝竜寺地区)、京田辺市(草内地区、三野地区)の3地区でマイ防災マップを作成した。平成26年度は、ケーススタディ地区として、城陽市の青谷校区にて地形特性、浸水特性、避難特性を考慮し、小学校単位の校区版のマイ防災マップの作成に向けた支援を行った。

なお、京田辺市において、西八区ならびに新区でマイ防災マップの作成を行った。

また、水害に強い地域づくりに資する取組事例等を整理した住民の適切な避難に向けた「取組のポイント集」に優良事例の追加を行った。



マイ防災マップ作成事例：城陽市青谷校区



地域住民が参加した「マイ防災マップ」作成風景

淀川 水害に強い地域づくり協議会

<http://www.yodogawa.kkr.mlit.go.jp/activity/comit/kyogikai/index.html>

進捗状況

(平成26年度取組)

・淀川河川事務所管内において、平成26年度は、地形特性、浸水特性、避難特性を考慮し、小学校単位の校区版のマイ防災マップの作成に向けた支援として、城陽市の青谷校区をケーススタディ地区にマイ防災マップを作成した。なお、京田辺市が、西八区ならびに新区でマイ防災マップの作成を行った。

また、水害に強い地域づくりに資する取組事例等を整理した住民の適切な避難に向けた「取組のポイント集」に優良事例の追加を行うとともに、住民の適切な避難行動の実現に向け、避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン(案)の改訂に伴う情報の更新と、避難勧告の発令に着目した河川管理者と自治体の連携強化を図った。(平成26年度 水害に強い地域づくり協議会)

点検結果

水害に強い地域づくり協議会を通じて、淀川河川事務所では、防災マップをケーススタディ地区で作成支援するなど関係機関との連携が進められている。

今後も、定期的に各協議会を開催し、関係自治体との連携を強化していく。

危機管理体制の構築

【観点】破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の整備状況

「指標」水害に強い地域づくり協議会実施内容・開催回数(人川と指標が重複)

【協議会の設置状況】

【淀川河川事務所】

住民が防災情報を適切に理解するための取り組み、住民の適切な避難行動の実現に向けた取り組み、河川管理者と自治体との連携強化の推進等の様々な活動を実施している。(平成16年に水害に強い地域づくり協議会設置)



○第1回行政WG会議 議題  
・平成26年度活動方針



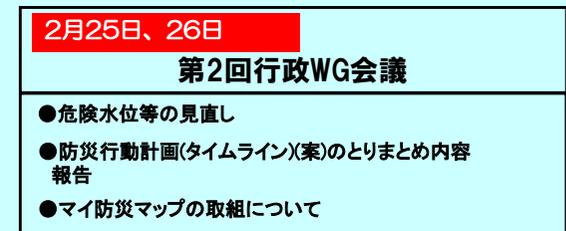
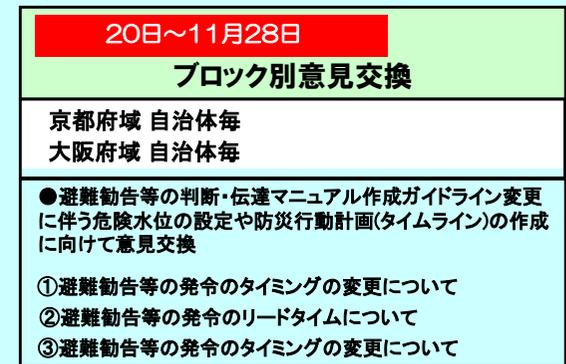
○第2回行政WG会議 議題  
・基準水位の見直しについて  
・防災行動計画(タイムライン)について  
・マイ防災マップの取組について



○ブロック別意見交換 議題  
・避難勧告等発令のタイミング変更について  
・避難勧告等発令のリードタイムについて  
・防災行動計画(タイムライン)の策定に向けた現状と課題について



○首長会議 議題  
・今年度の活動報告  
・近年の水災害の状況等について



淀川 水害に強い地域づくり協議会

<http://www.yodogawa.kkr.mlit.go.jp/activity/comit/kyogikai/index.html>

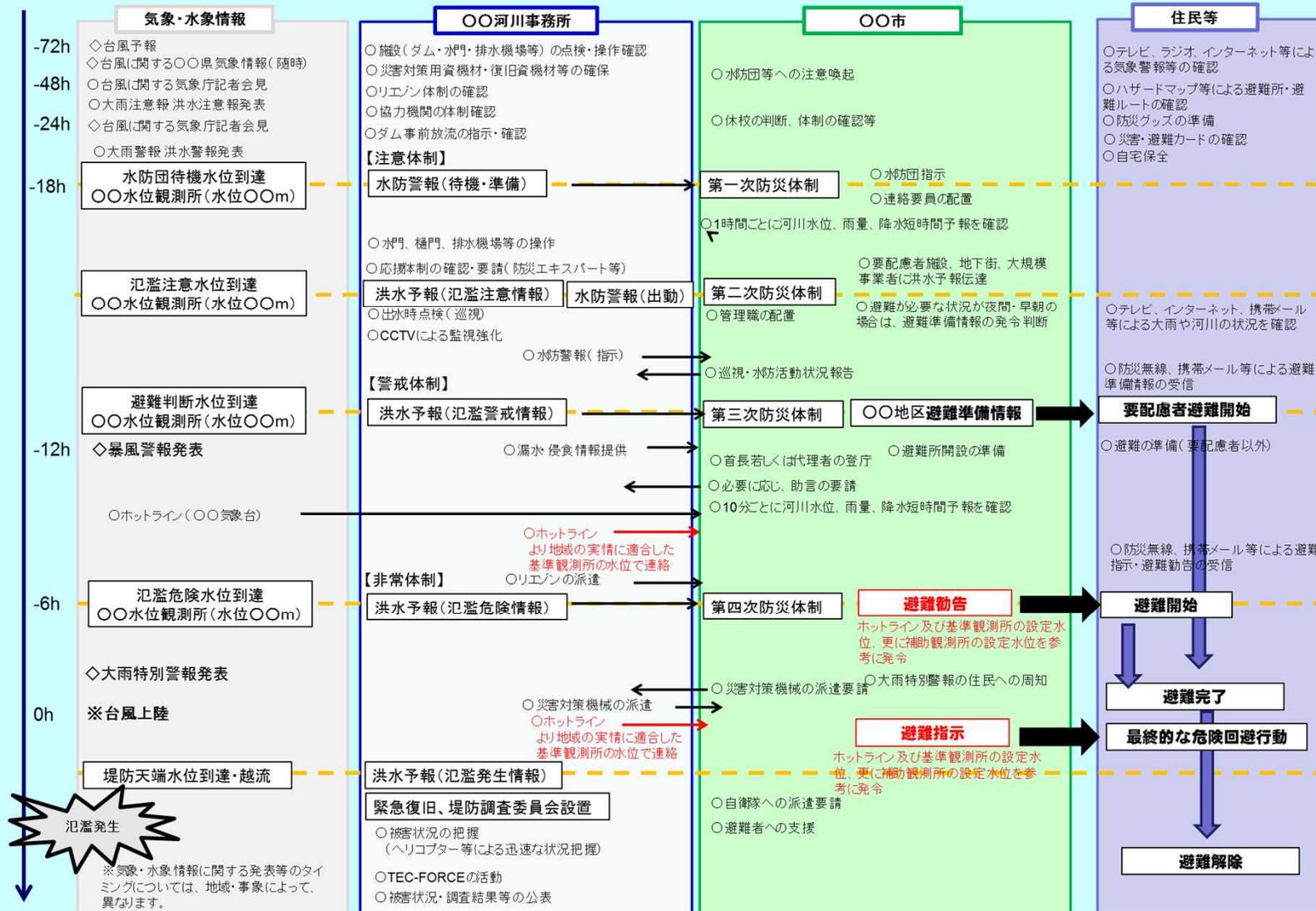
危機管理体制の構築

【観点】破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の整備状況

「指標」水害に強い地域づくり協議会実施内容・開催回数(人川と指標が重複)

【タイムラインについて】

大規模水災害の発災前から各主体が迅速で的確な対応をとるために、いつ、だれが、どのように、何をするかをあらかじめ明確にしておくとともに、それぞれ他の主体がどのような対応をとるのかを把握しておくことが必要となることから、平常時から地方自治体や関係機関等が共通の時間軸(タイムライン)に沿った具体的な対応を協議し、防災行動計画を策定し、災害時にはそれを実践する。



避難のためのタイムラインの検討イメージ

危機管理体制の構築

【観点】破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の整備状況

「指標」水害に強い地域づくり協議会実施内容・開催回数(人川と指標が重複)

【木津川上流河川事務所】

平成26年6月24日名張地区まちづくり推進協議会へ「防災に関する講演会」を実施した。

○出席者

- ・名張地区まちづくり推進協議会防災部会14名
  - ・名張市役所1名
  - ・木津川上流河川事務所5名
- 合計20名

災害時における避難の重要性や身近に出来る水防について説明し、その後の質疑応答では、「雨量と水位上昇の関連性」、「ダムに関すること」、「避難勧告のタイミング」等多岐にわたる質問が数多く出され、風水害の基礎知識と日頃からの備え等について情報提供を行った。



名張地区まちづくり推進協議会

**水防活動(すいぼうかつどう)の活用編 (かつようへん) ①**

おうちでできる水防工法(すいぼうこうほう)①

堤防(ていぼう)での水防工法(すいぼうこうほう)は、水防団(すいぼうだん)が行うものですが、おうちでもゴミ袋(ぶくろ)や段(だん)ボールなど身近(みぢか)な物を使って、家の中に水が入るのを防(ふせ)ぐこともできます。おうちでできる水防工法(すいぼうこうほう)を家族(かぞ)みんなで覚(おぼ)えて、洪水(こうずい)から家が守(まも)らる。

**プランターを活用(かつよう)**

花などを植(う)えるプランターも活用(かつよう)できます。プランターをシートなどで包(つつ)みます。より効果的(こうかてき)に水の侵入(しん)に防(ふせ)ぐことができます。

**木の板(いた)と土(つち)のうやポリタンクを活用(かつよう)**

玄関(げんかん)などは、木の板(いた)と土(つち)のうやポリタンクで固定(こてい)するだけでも、水の侵入(しん)に防(ふせ)ぐことができます。

**家庭用(かていよう)に開発(かいはつ)された製品(せいひん)を活用(かつよう)**

重(おも)い土(つち)のうは、一般(いっぱん)家庭(かてい)ではなかなか備(そな)えておくことができません。しかし、水を吸(き)取(と)る(きゅうしゅう)するとふくらんで、土(つち)のうと同じ役割(やくわり)を果(は)たす便利な製品(せいひん)もあります。家庭用(かていよう)に開発(かいはつ)されたこれらの製品(せいひん)は、畳段(ふだん)はコンパクトなサイズなので、万(ま)一(いち)に備(そな)えて物置(もの置き)などに収納(しゅう)しやすくなっています。

**水防活動(すいぼうかつどう)の活用編 (かつようへん) ②**

おうちでできる水防工法(すいぼうこうほう)②

**ゴミ袋(ぶくろ)を活用(かつよう)**

ゴミ袋(ぶくろ)を2~3重(かさ)にし、水を入れます。そして家の出入口(でいりぐち)などに並べると、侵入(しん)に防(ふせ)ぐ水の量(りょう)を減(へ)らすことができます。ただし、あまり入れすぎると破(やぶ)れるので気を付けましょう。

**ゴミ袋(ぶくろ)と段(だん)ボール箱(はこ)を活用(かつよう)**

水を入れたゴミ袋(ぶくろ)を段(だん)ボール箱(はこ)に入れて、家の出入口(でいりぐち)などに置(お)きます。ゴミ袋(ぶくろ)だけだと、すき間(すきま)から水が入(い)り、水に流(なが)されやすくなりますが、段(だん)ボール箱(はこ)に入(い)れると流(なが)されにくくなります。代用(だいよう)として、新聞紙(しんぶん)を30~40cmの高(たか)さに重ね(かさ)ねて2重(かさ)にひもがけ使う(つか)うこともあります。

身近に出来る水防資料

## 危機管理体制の構築

【観点】破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の整備状況

「指標」水害に強い地域づくり協議会実施内容・開催回数(人川と指標が重複)

進捗状況	点検結果
<p>(平成26年度 of 取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>淀川河川事務所管内においては、平成16年に水害に強い地域づくり協議会を設置しており、平成26年度は、首長会議2回、ワーキンググループ4回、ブロック別の意見交換19回、地域住民・自治体職員の防災意識向上を目的とした講演会・研修会を8回実施し、風水害の基礎知識と日頃からの備え等について情報提供を行った。</li> <li>琵琶湖河川事務所管内においては、平成16年に水害に強い地域づくり協議会を設置しており、平成26年度は、協議会を4回実施、担当者会議を3回実施し、風水害の基礎知識と日頃からの備え等について情報提供を行った。</li> <li>猪名川河川事務所管内においては、昭和55年に猪名川流域総合治水対策協議会を設置しており、平成26年度は、流域の都市化に伴い治水の安全度が低下している猪名川流域において、土地の適正な利用計画等、総合的な治水対策のための諸施策を協議のうえ策定した。かつ、その施策を推進することにより水害を防止し、また軽減を図ることを目的とした、猪名川流域総合治水対策協議会・幹事会を1回実施し、風水害の基礎知識と日頃からの備え等について情報提供を行った。</li> <li>木津川上流河川事務所管内においては、平成26年度は、引き続き協議会発足に向けて調整を行っており、名張市と連携しまちづくり推進協議会へ防災に対する講演を実施し、風水害の基礎知識と日頃からの備え等について情報提供を行った。</li> </ul> <p>点検項目「洪水・災害時の人と川とのつながりの構築」の[指標]協議会等の設置状況と重複掲載</p>	<p>各事務所管内において、水害に強い地域づくり協議会の設立が進んでおり関係機関との連携が進められている。</p> <p>今後も、定期的に各協議会を開催することにより、関係自治体との連携を強化していく。</p> <p>なお、協議会が未設置の地域では、早期設置を図る。</p>

堤防強化の実施

【観点】堤防の強化対策の実施状況

「指標」HWL以下、浸透、侵食対策実施内容・延長

【堤防強化工事の事例】

【淀川河川事務所】

平成26年度は、木津川で7.3kmの浸透対策等を実施した。

工事区間内にチガヤ、オガルカヤ、カワラナデシコが存在しており、環境委員会の意見を踏まえ、工事にあたり、表土を移植、再利用を実施した。

木津川岩田大住地区(木津川左岸8.8k付近)



施工前



施工中(ドレーン工設置)



施工後



環境委員会による立会



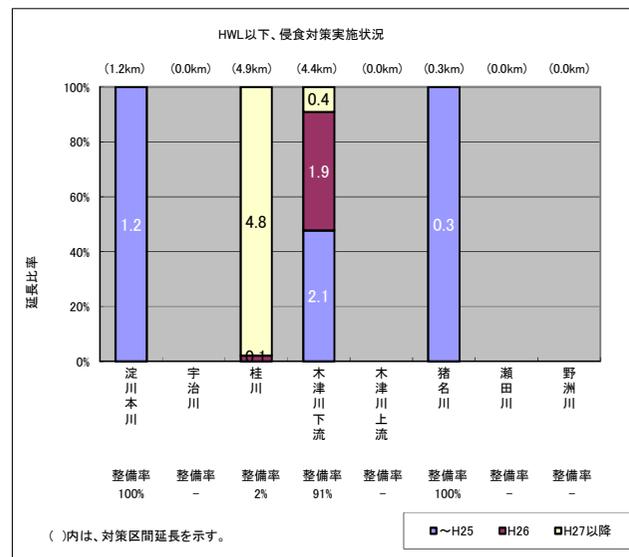
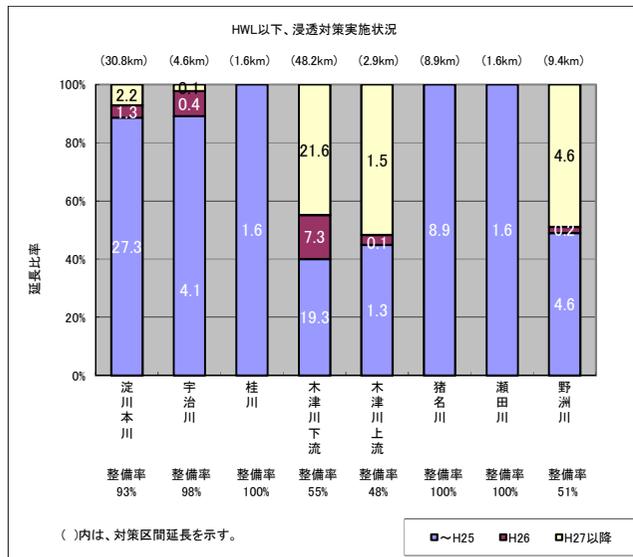
車両通行路においてもチガヤ群の表土を保存した上で、通行

進捗状況

(平成26年度の取組)

平成26年度は9.4kmの整備を実施した。(うち、1.9kmは浸透と侵食対策の重複区間。)

平成26年度までに79.4kmについて整備を実施している。



※淀川本川0.2km、木津川下流4.4kmは浸透と侵食対策の重複区間

点検結果

HWL以下の浸透、侵食対策については、着実に実施している。

整備計画では緊急整備区間については10年以内で実施し、それ以外の区間は計画的に実施することとしているが、平成24年9月に公表した堤防の緊急点検結果を踏まえ、整備計画の緊急整備区間外も早期に完成できるように進捗を図り、堤防強化を推進していく。

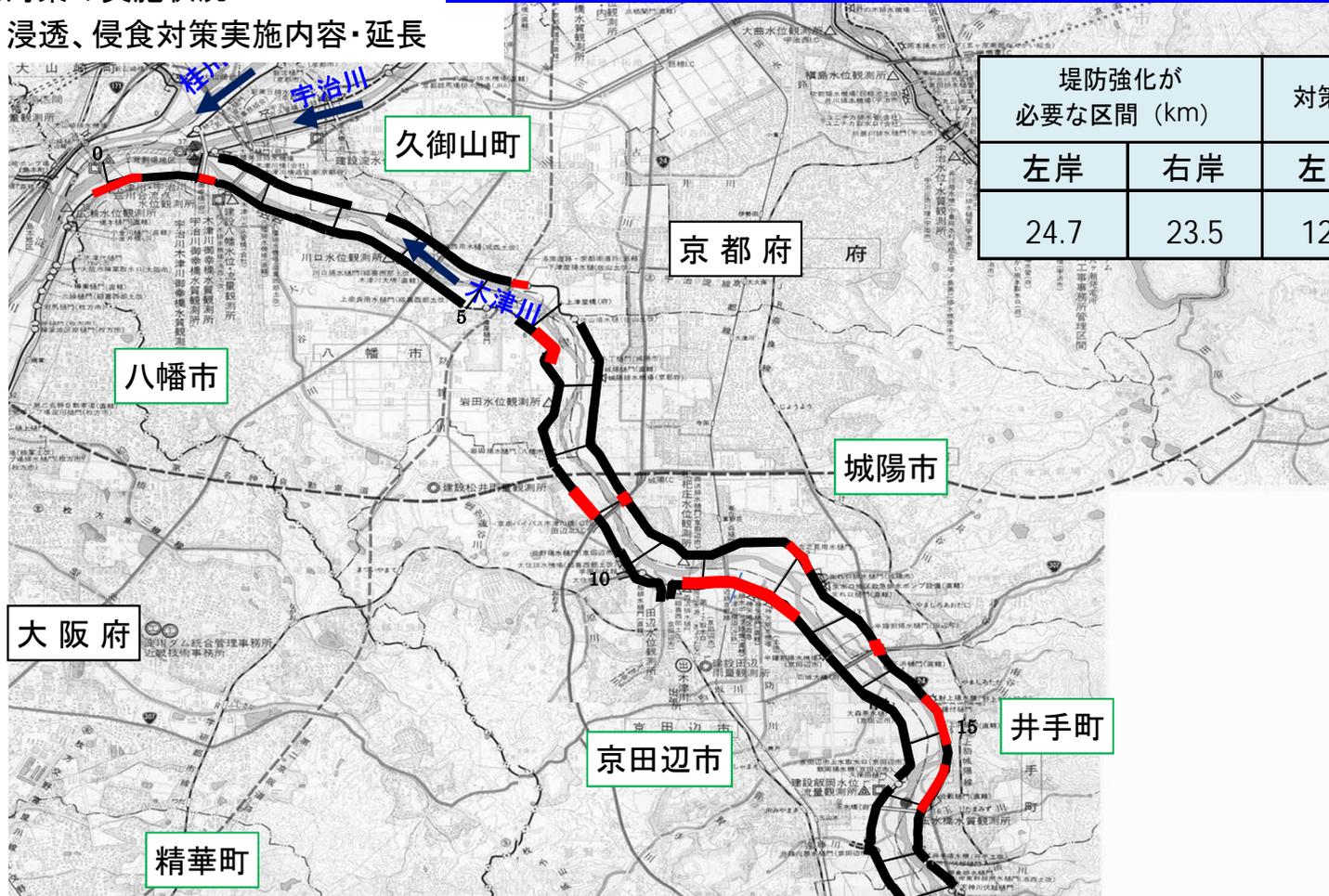
# 木津川下流 堤防詳細点検及び対策位置図(浸透対策)

<H26年度末時点>

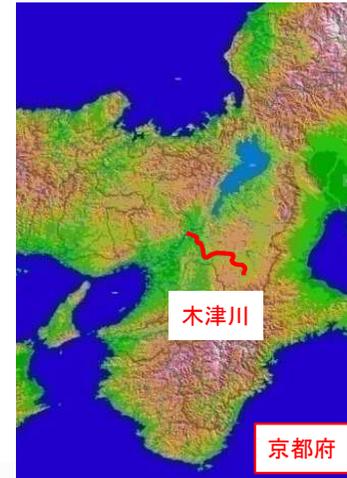
## 堤防強化の実施

【観点】堤防の強化対策の実施状況

「指標」HWL以下、浸透、侵食対策実施内容・延長



堤防強化が必要な区間 (km)		対策済延長 (km)		未対策区間 (km)	
左岸	右岸	左岸	右岸	左岸	右岸
24.7	23.5	12.7	13.9	12.0	9.6



# 木津川上流 堤防詳細点検及び対策位置図(浸透対策)

<H26年度末時点>

## 堤防強化の実施

【観点】堤防の強化対策の実施状況

「指標」HWL以下、浸透、侵食対策実施内容・延長



凡例

対策済	<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:black;"></span>
未対策	<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:red;"></span>

堤防強化が必要な区間(km)		対策済延長(km)		未対策区間(km)	
左岸	右岸	左岸	右岸	左岸	右岸
1.4	1.5	1.3	0.1	0.1	1.4

※平成24年度に実施した堤防の緊急点検の結果、堤防強化が必要な区間延長が左右岸とも0.1km追加となっている。



堤防強化の実施

【観点】堤防の強化対策の実施状況

「指標」堤防天端以下、侵食対策実施内容・延長

【淀川河川事務所】

平成26年度は、木津川で0.6kmの堤防天端以下侵食対策を実施した。

木津川<sup>かばた</sup>綺田地区では、工事区間内にレンリソウ・オガルカヤ・チガヤ・クサボケが存在しており、環境委員会の意見を踏まえ、表土を移植、再利用を実施した。



施工前



施工中(遮水シート設置)



施工後

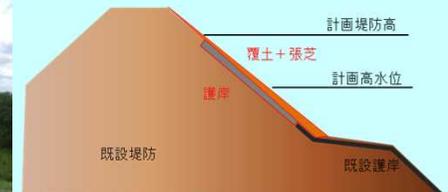
木津川<sup>かばた</sup>綺田地区(木津川右岸17.6付近)



表土の保管状況



環境委員会による立会



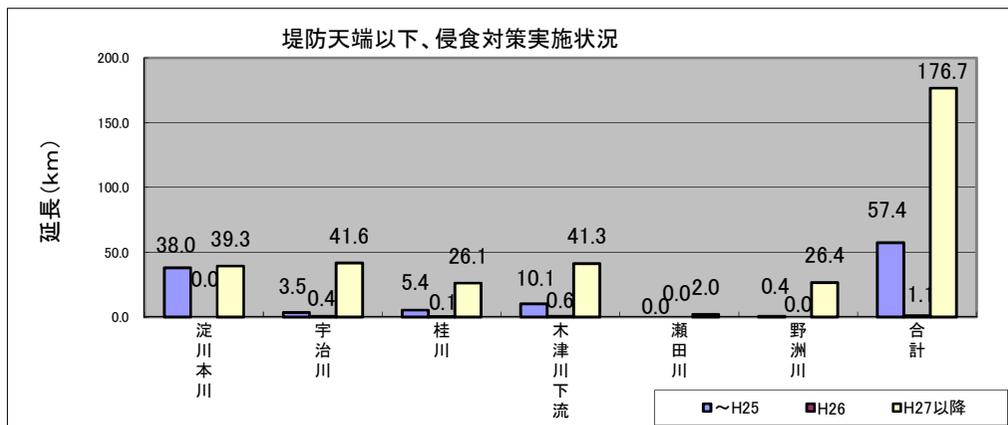
侵食対策断面

進捗状況

(平成26年度の取組)

平成26年度は1.1kmの整備を実施した。

平成26年度までに58.5kmについて整備を実施している。



点検結果

堤防天端以下の侵食対策については、着実に実施している。

今後も引き続き、堤防強化の一貫として整備の促進に努める。

堤防強化の実施

【観点】堤防の強化対策の実施状況

「指標」堤防天端舗装実施内容・延長

【堤防天端舗装の事例】

【淀川河川事務所】

平成26年度は、木津川で1.5kmの堤防天端舗装を実施した。

木津川奈島外島地区(木津川右岸13k付近)



施工後

木津川菱田宮津地区(木津川左岸18k付近)



施工後

進捗状況

(平成26年度の取組)

平成26年度は3.7kmの整備を実施した。

平成26年度までに264.2kmについて整備を実施している。

点検結果

堤防天端舗装の実施について、各区間毎の安全性や緊急性をふまえ着実に進捗している。

今後も、地元と調整を図りながら計画に沿った整備を進める。

堤防強化の実施

【観点】堤防の強化対策の実施状況

「指標」側帯整備実施内容・延長

平成26年度は木津川では進捗が無かったが、これまでの整備により木津川では約1.8kmの側帯を整備している。

(堤防の側帯)

①第1種側帯

旧川の締切箇所、漏水箇所その他堤防の安全を図るため必要な箇所に設けるもの

②第2種側帯

非常用の土砂等を備蓄するため特に必要な箇所に設けるもの

③第3種側帯

環境を保全するため特に必要な箇所に設けるもの

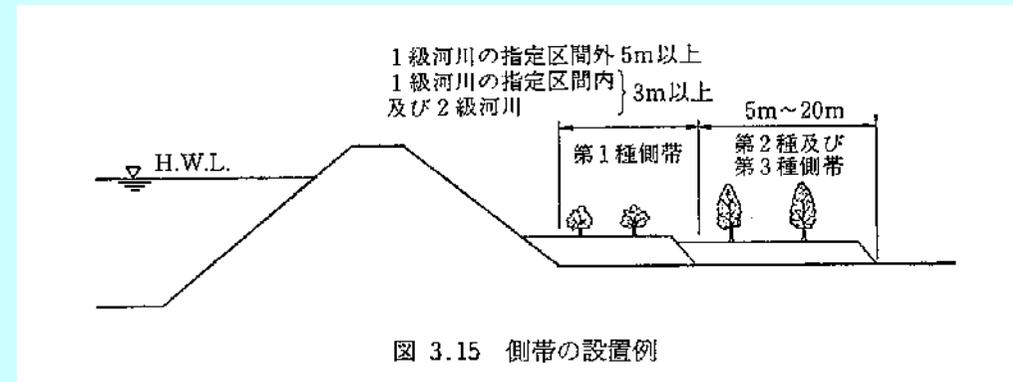


図 3.15 側帯の設置例

出典：河川管理施設等構造令

進捗状況	点検結果
<p>(平成26年度の取組) 平成26年度は整備を実施していない。</p>	<p>側帯整備の実施について、平成26年度は整備実績が無かったが、今後も、地元と調整を図りながら整備を進める。</p>

川の中で洪水を安全に流下させるための対策

【観点】上下流バランスの状況

「指標」実績降雨、計画規模降雨における上下流水位の変化内容

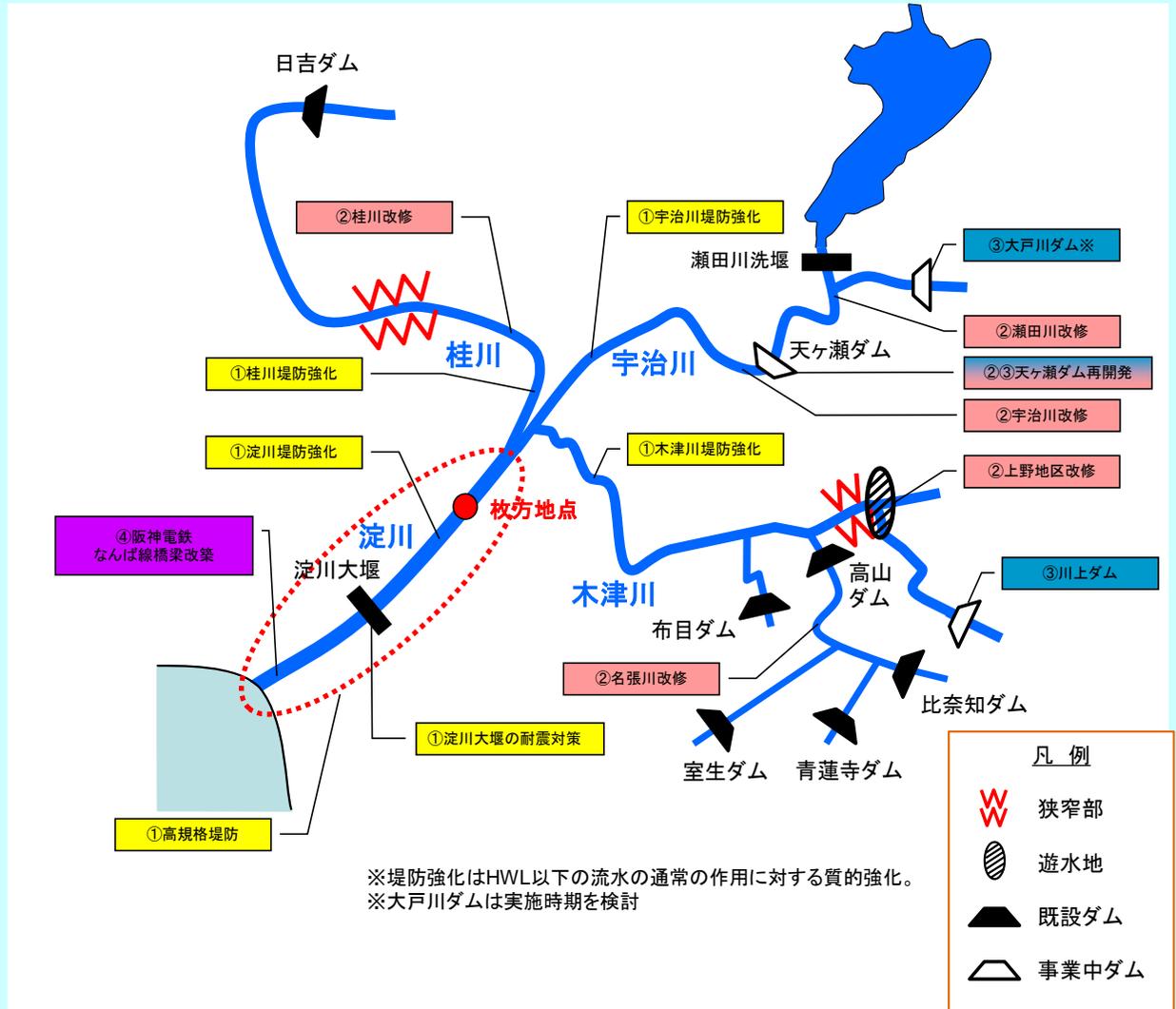
【上下流バランスの考え方】

【淀川本川】

整備のいかなる段階においても、計画規模以下の洪水に対しては計画高水位以下の水位で安全に流下させる。

【桂川・宇治川・木津川】

戦後最大の洪水である昭和28年台風13号洪水を計画高水位以下の水位で安全に流下させる。



凡例

①構造物の信頼度を向上する事業

②流下能力を向上する事業 ※1

③流量を低減する事業 ※2

④淀川本川の流下能力を向上する事業

淀川本川に対して

※1 水位を上昇させる

※2 水位を低下させる

川の中で洪水を安全に流下させるための対策

【観点】上下流バランスの状況

「指標」実績降雨、計画規模降雨における上下流水位の変化内容

【上流部治水対策事例 木津川・服部川・柘植川 木津川上流河川事務所】

木津川岩倉峡上流では、上野遊水地、川上ダム、河道掘削等の河川改修により上野地区の浸水対策を実施する事としており、平成26年度は上野遊水地の本川堤築堤、服部川霞堤の締切り、柘植川の無堤部築堤を実施した。

平成27年度より運用開始した上野遊水地による貯留効果により、下流への水位低減を図り、今後岩倉峡上流における河道掘削や川上ダムを実施し、整備計画で目標とする戦後最大洪水(昭和28年台風13号)を狭窄部上流の上野地区において安全に流下させることができる。



※小田遊水地本川堤のH27以降施工箇所については、H27出水期までに施工を完了している。

川の中で洪水を安全に流下させるための対策

【観点】上下流バランスの状況

「指標」実績降雨、計画規模降雨における上下流水位の変化内容

【上流部治水対策事例 木津川・服部川・柘植川 木津川上流河川事務所】

小田遊水地本川堤施工状況 (服部川左岸0.2k付近)  
※平成27年度施工箇所



服部川霞堤締切り施工状況 (服部川右岸1.4k+100m付近)



川の中で洪水を安全に流下させるための対策

【観点】上下流バランスの状況

「指標」実績降雨、計画規模降雨における上下流水位の変化内容

【服部川霞堤の締切りについて 木津川上流河川事務所】

平成24年台風17号、平成25年台風18号により伊賀市三田地区において、霞堤からの逆流、支川内水氾濫により浸水被害が発生した。

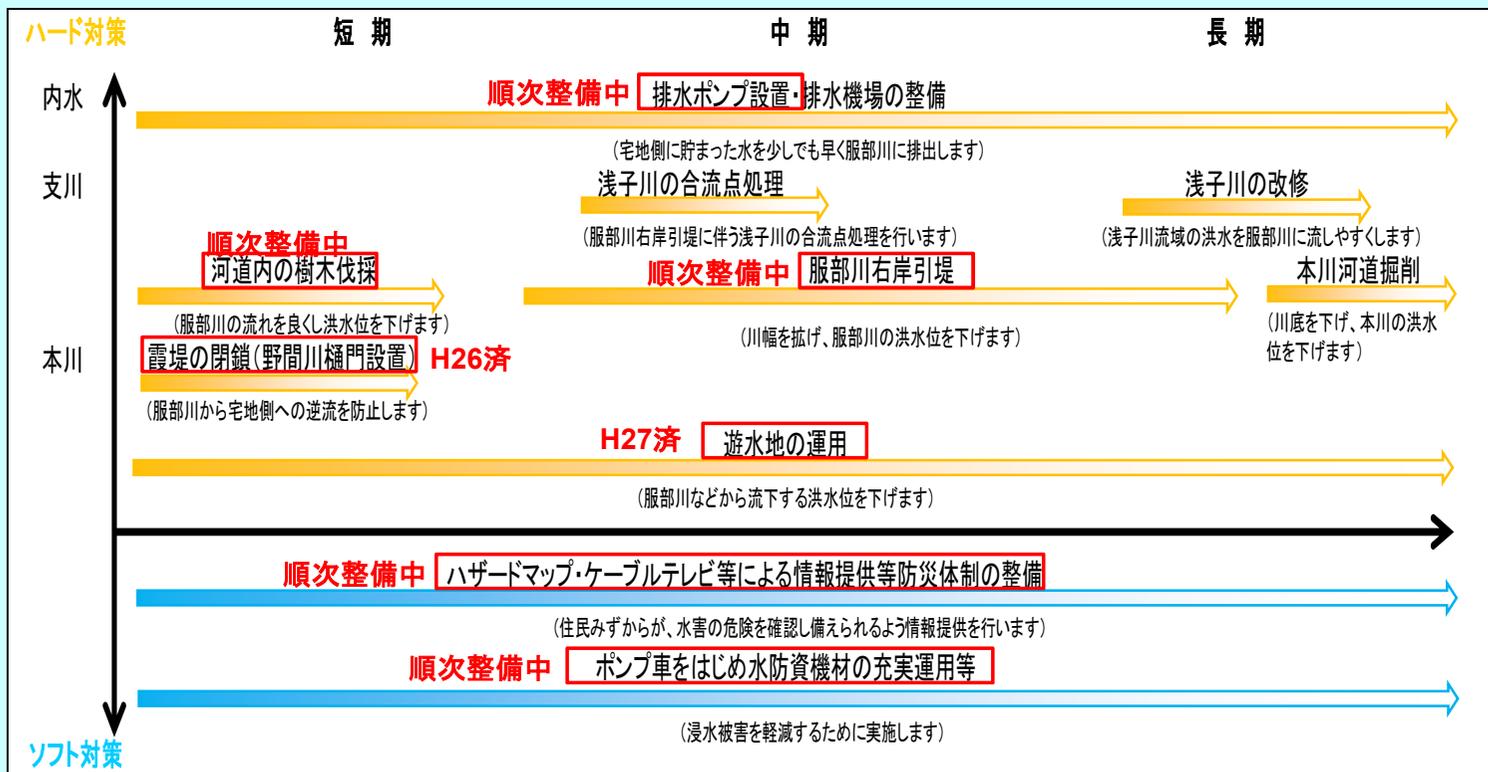
平成25年度に、平成25年台風18号による浸水被害の解消を目標として、国、三重県、伊賀市からなる三田地区浸水被害対策会議を3回開催、浸水要因の分析をふまえ浸水対策の取り組みについてメニューの抽出を行った。

平成25年台風18号三田地区浸水被害  
面積約20ha 床上45世帯 床下8世帯



● : H25痕跡水位調査地点  
 □ : H25台風18号浸水範囲  
 □ : H24台風17号浸水範囲

■抽出したメニュー (朱書き:現在の状況)



※浸水被害軽減にむけて段階的に安全度を上げるための対策メニューをまとめたものであり、すべての項目を実施するものではない。

## 川の中で洪水を安全に流下させるための対策

## 【観点】上下流バランスの状況

## 「指標」実績降雨、計画規模降雨における上下流水位の変化内容

進捗状況	点検結果
<p>(平成26年度の取組)</p> <p>平成26年度は、上下流バランスを確認しながら、治水安全度の低い箇所において、以下の整備を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・桂川では平成25年9月に発生した台風18号により、浸水被害が発生したことから、緊急対策特定区間として設定し、現在実施中の河道掘削を大幅に前倒しして実施することとし、河積拡大に向けて掘削等を実施。(整備計画全体約370万m<sup>3</sup>のうち、約70万m<sup>3</sup>掘削済み)</li> <li>・宇治川においては、引き続き、河積拡大に向けて塔の島地区の河川改修を実施。(整備計画全体約17万m<sup>3</sup>のうち、約10万m<sup>3</sup>掘削済み)</li> <li>・瀬田川については、引き続き、河道掘削を実施。(整備計画全体約40万m<sup>3</sup>のうち、約30万m<sup>3</sup>掘削済み)</li> <li>・木津川上野遊水地については、運用開始に向け本川堤築堤を実施。(整備計画全体約7,680mのうち、約7,580m整備済み)</li> <li>・服部川については、霞堤の締切りを実施。</li> <li>・柘植川については、無堤部の築堤を実施。(整備計画全体約900mのうち、約300m整備済み)</li> <li>・猪名川については、引き続き、河道掘削を実施。(整備計画全体約44万m<sup>3</sup>のうち、約36万m<sup>3</sup>掘削済み)</li> </ul>	<p>上下流バランスを考慮し、安全度の低い中上流部の治水対策を段階的に進めている。</p> <p>今後も上下流バランスを確認しながら河積拡大等の整備を実施する。</p>

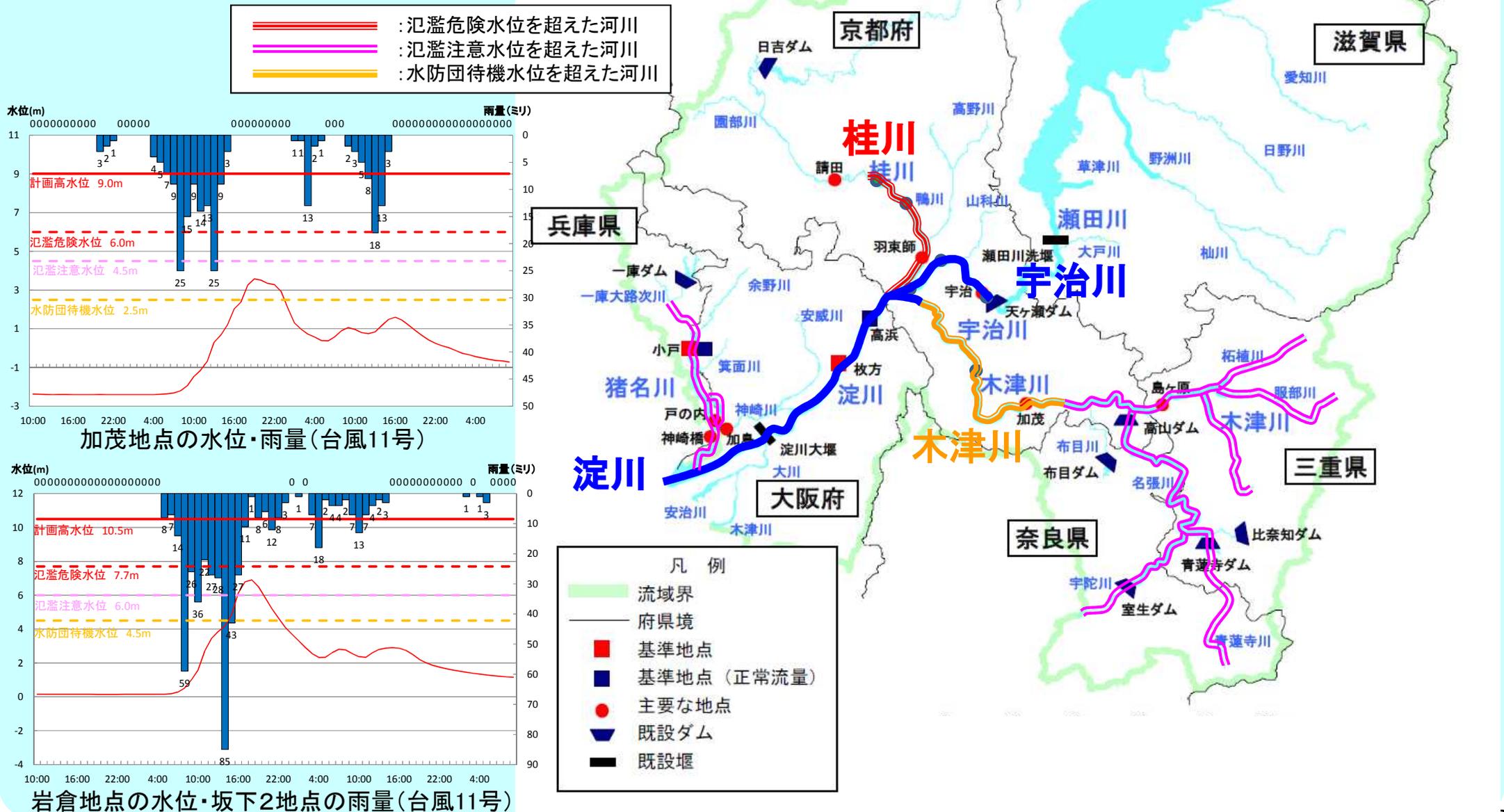
川の中で洪水を安全に流下させるための対策

【観点】河道流下能力の増大、洪水調節の効果的な実施による洪水位の低減状況

「指標」実績降雨、計画規模降雨における越水及びHWL超過内容・超過延長

【平成26年8月台風11号出水】

台風11号の豪雨により、淀川水系において、木津川下流で水防団待機水位を超過、木津川上流で氾濫注意水位を超過した。



## 川の中で洪水を安全に流下させるための対策

【観点】河道流下能力の増大、洪水調節の効果的な実施による洪水位の低減状況

「指標」実績降雨、計画規模降雨における越水及びHWL超過内容・超過延長

進捗状況	点検結果
<p>(平成26年度の実績)</p> <p>平成26年度は、台風11号出水により桂川で氾濫危険水位、木津川下流で水防団待機水位、木津川上流で氾濫注意水位、猪名川で氾濫注意水位を超過した。そのため、平成26年度も上記に引き続き整備を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>桂川では平成25年9月に発生した台風18号により、浸水被害が発生したことから、緊急対策特定区間として設定し、現在実施中の河道掘削を大幅に前倒して実施することとし、河積拡大に向けて掘削等を実施。(整備計画全体約370万m<sup>3</sup>のうち、約70万m<sup>3</sup>掘削済み)</li> <li>宇治川においては、引き続き、河積拡大に向けて塔の島地区の河川改修を実施。(整備計画全体約17万m<sup>3</sup>のうち、約10万m<sup>3</sup>掘削済み)</li> <li>瀬田川については、引き続き、河道掘削を実施。(整備計画全体約40万m<sup>3</sup>のうち、約30万m<sup>3</sup>掘削済み)</li> <li>木津川上野遊水地については、運用開始に向け本川堤築堤を実施。(整備計画全体約7,680mのうち、約7,580m整備済み)</li> <li>服部川については、霞堤の締切りを実施。</li> <li>柘植川については、無堤部の築堤を実施。(整備計画全体約900mのうち、約300m整備済み)</li> <li>猪名川については、引き続き、河道掘削を実施。(整備計画全体約44万m<sup>3</sup>のうち、約36万m<sup>3</sup>掘削済み)</li> </ul>	<p>上下流バランスを考慮し、安全度の低い中上流部の治水対策を段階的に進めている。</p> <p>今後も上下流バランスを確認しながら河積拡大等の整備を実施する。</p>

川の中で洪水を安全に流下させるための対策

【観点】河道流下能力の増大、洪水調節の効果的な実施による洪水位の低減状況

「指標」新設ダムの効果内容・洪水位低下量

木津川では進捗なし。

進捗状況	点検結果
<p>(平成26年度 of 取組)</p> <p>平成26年度の状況を以下に示す。</p> <p>大戸川ダムは、ダム検証中であるため、平成25年度に引き続き、付替県道工事等を実施した。なおダム検証は、実施中である。</p> <p>川上ダムは、ダム検証の結果、継続となった。平成26年度は、平成25年度に引き続き、付替県道工事等を実施し、本体着工に向け、事業実施計画の変更等を行った。</p> <p>天ヶ瀬ダム再開発は、平成26年度は、トンネル式放流設備の建設工事と橋梁架替工事を実施した。また、平成25年度に引き続き、工事用道路の整備を継続実施した。</p>	<p>大戸川ダム、丹生ダムについては、「今後の治水対策のあり方に関する有識者会議」より平成22年9月27日に示された「今後の治水対策のあり方について 中間とりまとめ」に沿って、鋭意ダム事業の検証を実施している。</p> <p>川上ダム及び天ヶ瀬ダム再開発については、引き続きダム事業を推進していく。</p>

土砂対策

【観点】土砂移動の制御の実施状況

「指標」土砂移動抑制策(砂防堰堤, 山腹工)の実施内容・箇所数

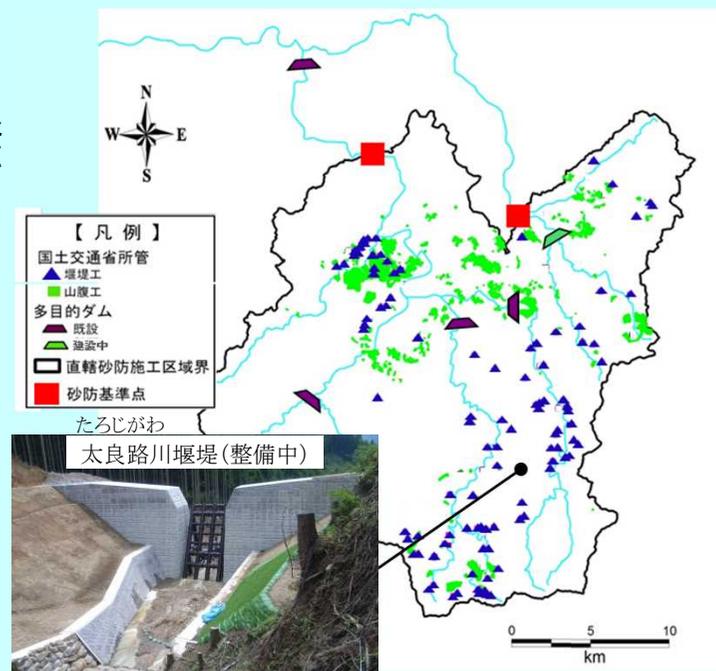
【木津川上流河川事務所】

木津川流域と下流淀川を災害から守るために、木津川、名張川、青蓮寺川、宇陀川の流域各所で昭和26年より、砂防堰堤の整備を推進。平成27年3月現在で109基の整備を完了しており、下流及びダムへの堆砂抑制を目的とした砂防堰堤1基を整備している。



平成26年度末時点

施設名	数量
砂防堰堤工	109基
溪流保全工	15基
谷止工	43基
床固工	4基



進捗状況

(平成26年度の取組)

・平成26年度は、木津川では、砂防堰堤1基を整備中。(太良路川堰堤)

◆土石流への対応指標: 土石流危険溪流への着手率

木津川: 着手率 21.6% (土石流危険溪流 I)

木津川上流における直轄砂防事業については、平成25年度事業再評価において検証を実施したところ、山腹工や堰堤工の整備が進み土砂整備率が86%と相当程度進捗していること、昭和57年以降は規模の大きな土砂災害が発生していないこと、下流河川の河床の上昇はなく長期にわたり安定していること、下流のダムの堆砂状況は建設当初と比べ減少していること等から、水系砂防としての整備効果が相当程度発現されているという検証結果となった。

点検結果

山腹工の整備を完成させるなど土砂移動抑制策を着実に進めている。

木津川における下流及びダムへの堆砂抑制を目的とした直轄砂防事業については、引き続き整備を進めていく。

土砂対策

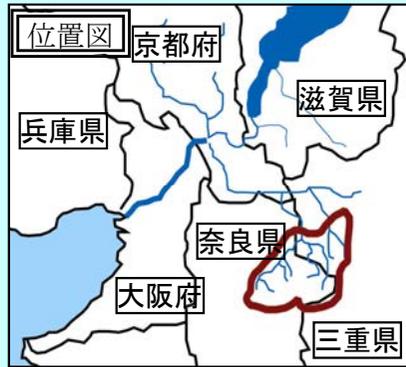
【観点】土砂移動の制御の実施状況

「指標」土砂を下流へ流すことができる砂防堰堤の設置内容・設置数(砂防施設)(河川環境と指標が重複)

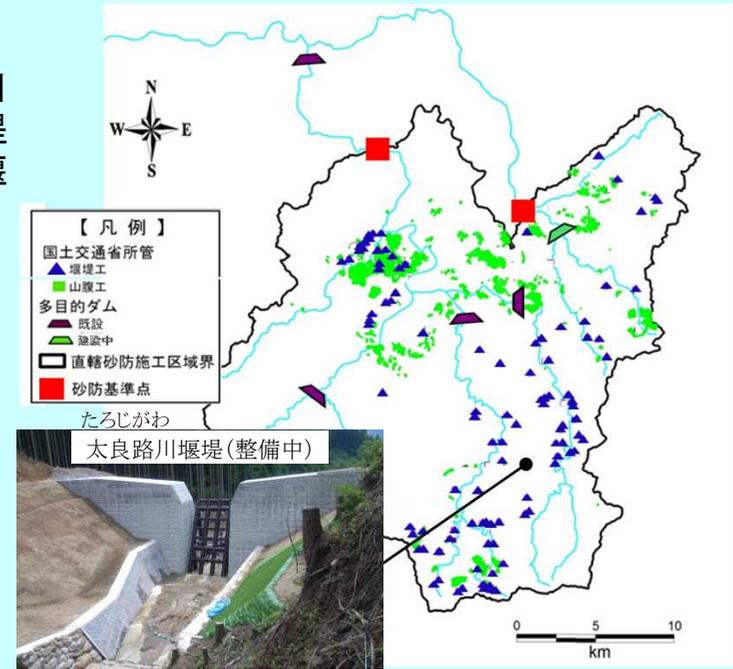
【木津川上流河川事務所】

木津川流域と下流淀川を災害から守るために、木津川、名張川、青蓮寺川、宇陀川の流域各所で昭和26年より、砂防堰堤の整備を推進。平成27年3月現在で砂防堰堤として109基の整備を完了しており、そのうち、土砂を下流へ流すことができる砂防堰堤として3基を設置、1基を整備している。

平成26年度末時点



施設名	数量
砂防堰堤工 (うち、土砂を下流に流すことができるもの)	109基 ( 3基 )
溪流保全工	15基
谷止工	43基
床固工	4基



進捗状況	点検結果
<p>(平成26年度の取組)</p> <p>平成26年度の設置箇所は以下のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">たるじがわ</p> <p>木津川:1箇所(太良路川堰堤整備中)</p> <p>木津川上流における直轄砂防事業については、平成25年度事業再評価において検証を実施したところ、山腹工や堰堤工の整備が進み土砂整備率が86%と相当程度進捗していること、昭和57年以降は規模の大きな土砂災害が発生していないこと、下流河川の河床の上昇はなく長期にわたり安定していること、下流のダム堆砂状況は建設当初と比べ減少していること等から、水系砂防としての整備効果が相当程度発現されているという検証結果となった。</p>	<p>排砂及び砂防堰堤のスリット化については下流の保全対象と、流域全体の土砂移動の連続性を考慮(平常時の土砂供給)し、実施について検討していく。</p> <p>木津川における下流及びダムへの洪水時の堆砂抑制や平常時の土砂供給を目的とした直轄砂防事業については、引き続き整備を進めていく。</p>
<p>点検項目「流域の視点に立った水循環・物質循環系の構築」の[指標] 土砂を下流へ流すことができる砂防堰堤の設置内容・設置数(砂防施設)と複掲載</p>	

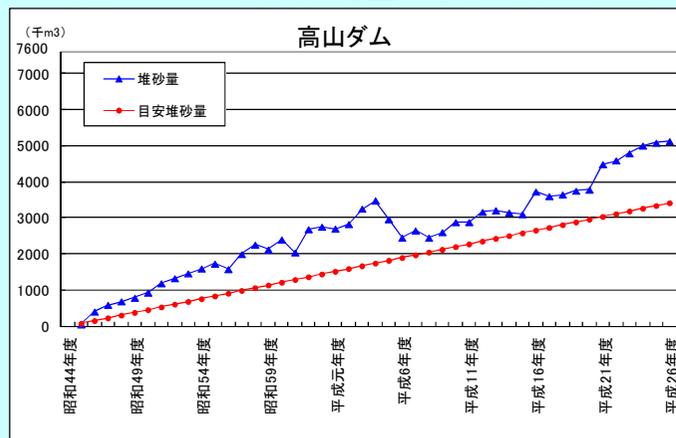
土砂対策

【観点】流域の土砂生産・移動・堆積の実態把握状況

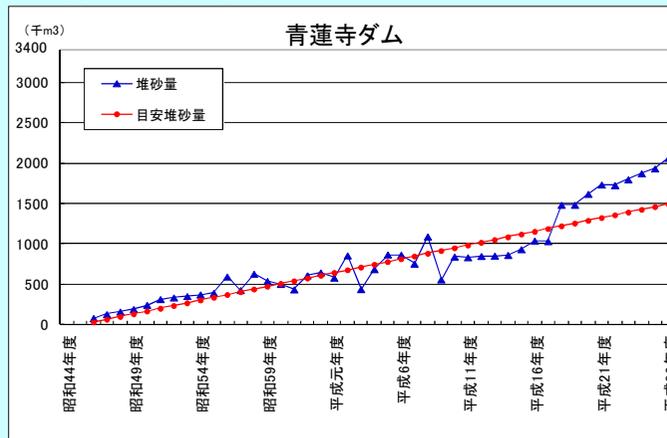
「指標」河床変動等の土砂動態のモニタリング、総合土砂管理方策の検討内容(既設ダム)(河川環境と指標が重複)

平成26年度も各ダムにおいて、土砂動態の実態把握のためのモニタリングを継続した。

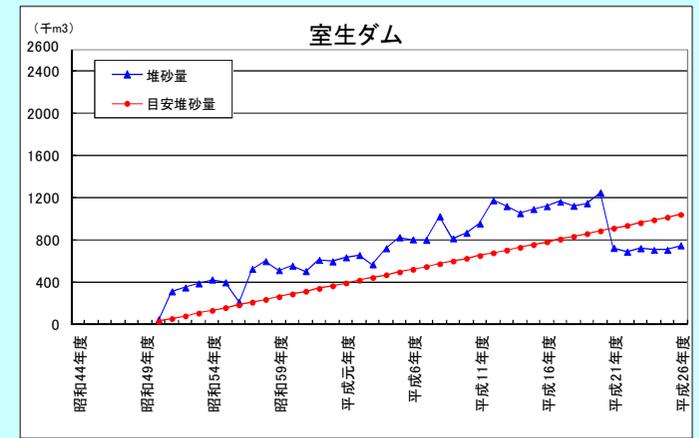
- ・高山ダムの堆砂については、計画堆砂量760万m<sup>3</sup>のうち、平成26年度末で堆砂率が約67%となっている。
  - ・青蓮寺ダムの堆砂については、計画堆砂量340万m<sup>3</sup>のうち、平成26年度末で堆砂率が約61%となっている。
  - ・室生ダムの堆砂については、計画堆砂量260万m<sup>3</sup>のうち、平成26年度末で堆砂率が約29%となっている。
  - ・比奈知ダムの堆砂については、計画堆砂量240万m<sup>3</sup>のうち、平成26年度末で堆砂率が約42%となっている。
  - ・布目ダムの堆砂については、計画堆砂量190万m<sup>3</sup>のうち、平成26年度末で堆砂率が約30%となっている。
- 堆砂については、今後も監視を行い、ダム機能の維持の排砂の検討を行っていく。



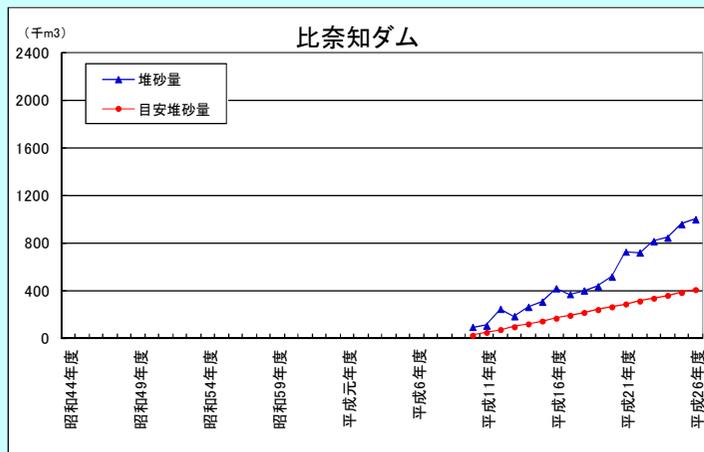
【主な出水】  
平成6年9月(台風26号)、平成16年8月(台風11号)  
平成21年10月(台風18号)



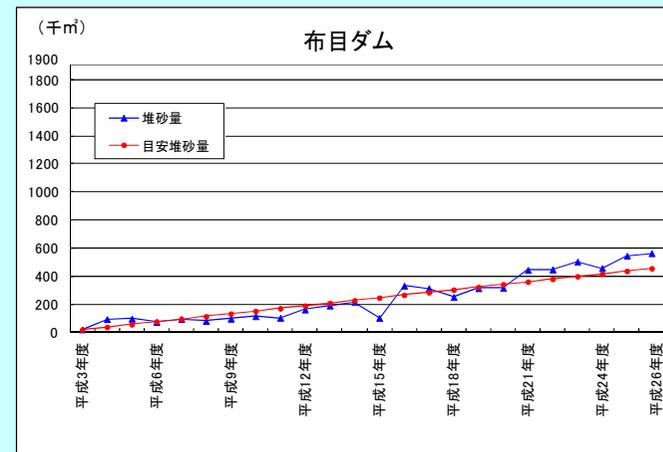
【主な出水】  
昭和58年8月(台風5号)、昭和61年7月(前線)  
平成2年9月(台風19号)、平成5年9月(台風14号)  
平成9年7月(台風9号)、平成10年9月(台風7・8号)



【主な出水】  
昭和51年9月(台風17号)、昭和57年7月(台風10号)、平成3年7月(前線)  
※平成20年度から平成21年度の大きな変動は、測量手法として深淺測量からマルチビーム測深機に変更による。



【主な出水】  
平成16年8月(台風11号)  
平成21年10月(台風18号)  
平成23年9月(台風12号)



【主な出水】  
平成15年8月(前線)  
平成16年5月(前線)  
平成18年7月(前線)  
平成18年7月(前線)  
平成21年10月(台風18号)

※出水によって土砂の堆積場所が移動したり、測量時の計測誤差が生じたりすること等から、堆砂量に増減が生じている。

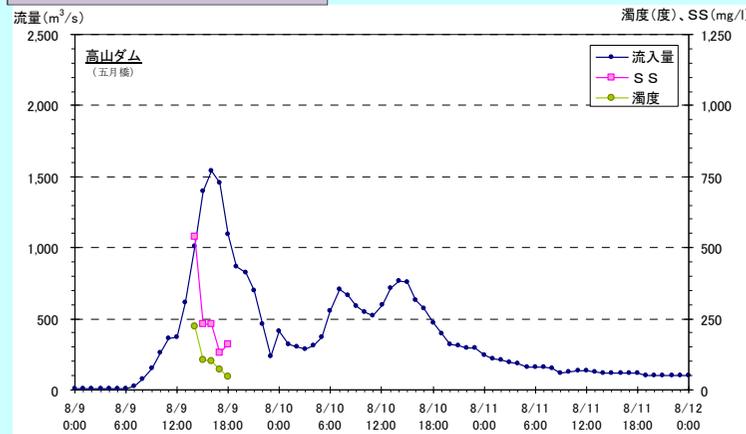
土砂対策

【観点】流域の土砂生産・移動・堆積の実態把握状況

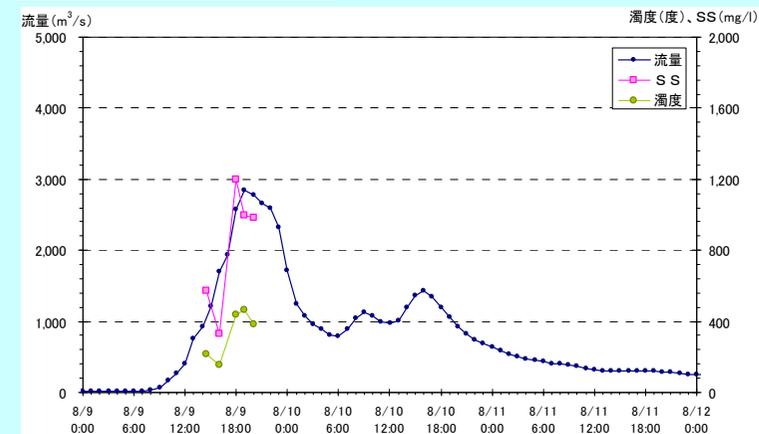
「指標」河床変動等の土砂動態のモニタリング、総合土砂管理方策の検討内容(既設ダム)(河川環境と指標が重複)

淀川水系総合土砂管理方策の検討において、ダムの堆砂測量や採水調査等を実施し、土砂移動把握に努めている。  
 なお、平成26年台風11号出水において、木津川では採水調査を実施しており、浮遊物質(SS)は、高山ダム流入部で500mg/l程度であったのが、下流の加茂地点で1,200mg/l程度と最大になり、さらに下流に向かって減少し、飯岡800mg/l、八幡地点600mg/lとなっている等の現状把握を実施した。

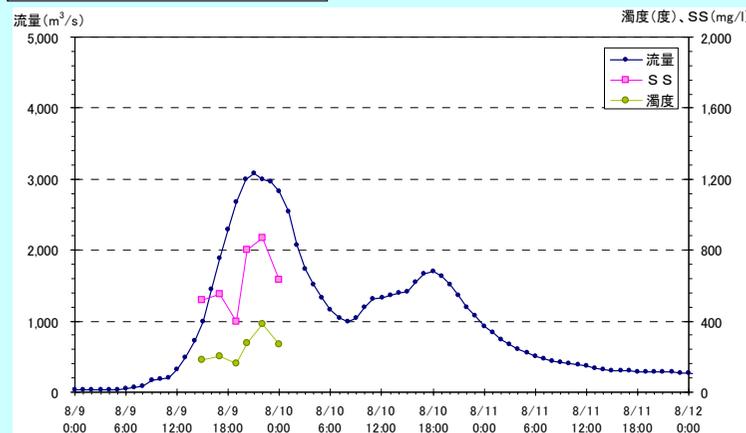
木津川－高山ダム



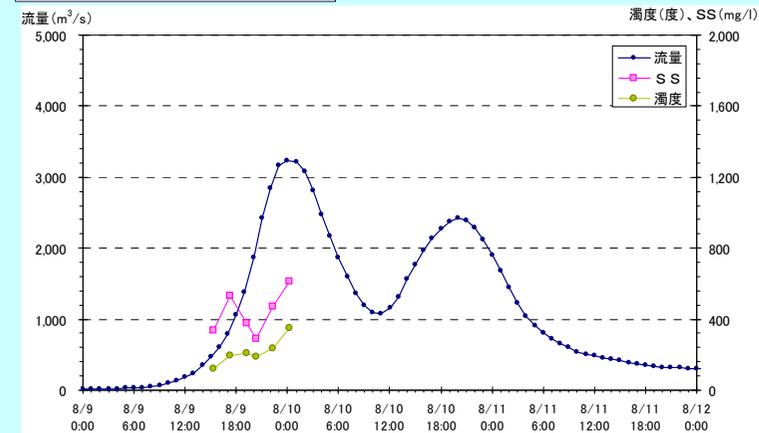
木津川－加茂



木津川－飯岡



木津川－八幡



図中の流量時系列は、H-Q換算式による換算流量(暫定値)

## 土砂対策

【観点】流域の土砂生産・移動・堆積の実態把握状況

「指標」河床変動等の土砂動態のモニタリング、総合土砂管理方策の検討内容(既設ダム)(河川環境と指標が重複)

進捗状況	点検結果
<p>(平成26年度の取組)</p> <p>平成26年度は、土砂動態の実態把握のためのモニタリングを継続した。</p> <p>高山ダムの堆砂については、計画堆砂量760万m<sup>3</sup>のうち、平成26年度末で堆砂率が約67%となっている。</p> <p>青蓮寺ダムの堆砂については、計画堆砂量340万m<sup>3</sup>のうち、平成26年度末で堆砂率が約61%となっている。</p> <p>室生ダムの堆砂については、計画堆砂量260万m<sup>3</sup>のうち、平成26年度末で堆砂率が約29%となっている。</p> <p>比奈知ダムの堆砂については、計画堆砂量240万m<sup>3</sup>のうち、平成26年度末で堆砂率が約42%となっている。</p> <p>布目ダムの堆砂については、計画堆砂量190万m<sup>3</sup>のうち、平成26年度末で堆砂率が約30%となっている。</p> <p>一庫ダムの堆砂については、計画堆砂量250万m<sup>3</sup>のうち、平成26年度末で堆砂率が約37%となっている。</p> <p>日吉ダムの堆砂については、計画堆砂量800万m<sup>3</sup>のうち、平成26年度末で堆砂率が約26%となっている。</p> <p>天ヶ瀬ダムの堆砂については、計画堆砂量600万m<sup>3</sup>のうち、平成26年度末で堆砂率が約80%となっている。</p> <p>堆砂については、今後も監視を行い、ダム機能の維持の排砂の検討を行っていく。</p> <p>点検項目「流域の視点に立った水循環・物質循環系の構築」の[指標] 河床変動等の土砂動態のモニタリング、総合土砂管理方策の検討内容(既設ダム)と重複掲載</p>	<p>淀川水系総合土砂管理検討委員会の指導・助言を得ながら、水系内の実態把握に努めている。</p> <p>今後も、引き続きモニタリングを行い、淀川水系総合土砂管理検討委員会の指導・助言を得ながら、総合土砂管理方策の検討を進める。</p>

既設ダム等の運用の検討

【観点】河道流下能力の増大、洪水調節の効果的な実施による洪水位の低減状況

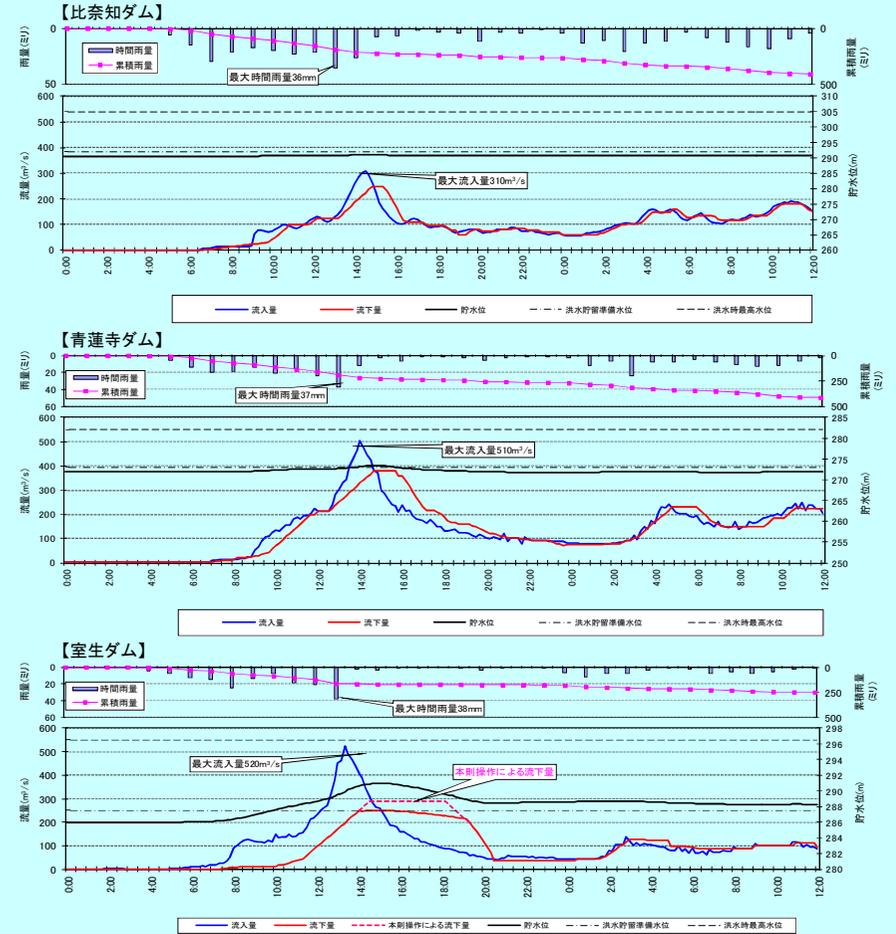
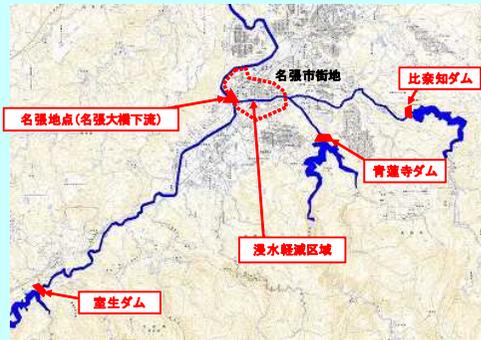
「指標」既設ダムの効果内容・洪水位低下量

【名張川3ダムの効果事例】

8月9日4時頃より降り始めた台風11号に伴う降雨は、8月9日4時から8月10日13時までの総雨量(ダム流域平均雨量)が青蓮寺ダム流域で326mm、室生ダム流域で252mm、比奈知ダム流域で414mmを記録した。この降雨に対して、比奈知ダムでは最大流入量(毎秒310立方メートル)の約27%となる毎秒約84立方メートル、青蓮寺ダムでは最大流入量(毎秒510立方メートル)の約35%となる毎秒約176立方メートル、室生ダムでは最大流入量(毎秒520立方メートル)の約62%となる毎秒約325立方メートルを貯留する操作を実施した。

この結果、ダム下流の名張地点(名張川)において、水位を最大約0.9m低減したものと推定される。

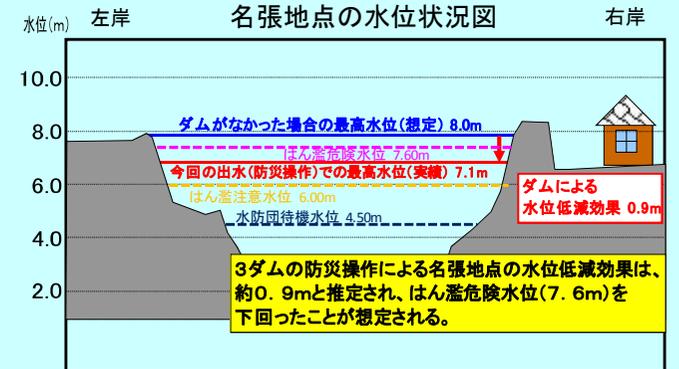
ダム諸元			
区分	比奈知ダム	青蓮寺ダム	室生ダム
ダムの形式	重力式 コンクリートダム	アーチ式 コンクリートダム	重力式 コンクリートダム
堤高	70.5m	82.0m	63.5m
堤頂長	355.0m	275.0m	175.0m
堤体積	430,000m <sup>3</sup>	175,000m <sup>3</sup>	153,000m <sup>3</sup>
集水面積	75.5km <sup>2</sup>	100km <sup>2</sup>	直接136km <sup>2</sup> /間接33km <sup>2</sup> /計169km <sup>2</sup>
総貯水容量	20,800,000m <sup>3</sup>	27,200,000m <sup>3</sup>	16,900,000m <sup>3</sup>
有効貯水容量	18,400,000m <sup>3</sup>	23,800,000m <sup>3</sup>	14,300,000m <sup>3</sup>
洪水調節容量	9,000,000m <sup>3</sup>	8,400,000m <sup>3</sup>	6,150,000m <sup>3</sup> (第1期:6/16~8/31) 7,750,000m <sup>3</sup> (第2期:9/1~10/15)



名張川下流河川状況



名張地点 河川状況



## 既設ダム等の運用の検討

【観点】河道流下能力の増大、洪水調節の効果的な実施による洪水位の低減状況

「指標」既設ダムの効果内容・洪水位低下量

進捗状況	点検結果
(平成26年度の実施) 平成26年度は、淀川水系のダム群において、合計12回の洪水調節を行った。	平成26年は洪水調節を実施し、下流河川及び支川の水位低減に寄与した。

地震・津波対策

【観点】地震対策事業の実施状況

「指標」河川管理施設の耐震対策実施内容・箇所数

木津川では、要対策箇所は樋門4箇所であるが、平成26年度は堰等の重要工作物を優先して実施したため、木津川では進捗が無かった。

進捗状況	点検結果
<p>(平成26年度の取組)</p> <p>平成26年度には樋門2箇所の耐震対策を実施した。 平成26年度末時点の河川管理施設の耐震対策の実施状況は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・堤防                     <ul style="list-style-type: none"> <li>: 要耐震点検20.4kmのうち、点検済み箇所20.4km 点検済み箇所20.4kmのうち、要対策箇所1.2km 要対策箇所1.2kmのうち、対策完了1.0km</li> </ul> </li> <li>・堰                     <ul style="list-style-type: none"> <li>: 要点検箇所2箇所のうち、点検済み箇所2箇所 点検済み2箇所のうち、要対策箇所2箇所 要対策箇所2箇所のうち、対策完了2箇所※ ※平成23年度の耐震設計見直しに伴い、継続して対策を実施中</li> </ul> </li> <li>・水門・樋門                     <ul style="list-style-type: none"> <li>: 要耐震点検86箇所のうち、点検済み箇所25箇所 点検済み箇所25箇所のうち、要対策箇所18箇所 要対策箇所18箇所のうち、対策完了4箇所(平成26年度2箇所)</li> </ul> </li> <li>・排水機場                     <ul style="list-style-type: none"> <li>: 要耐震点検9箇所のうち、点検済み箇所2箇所 点検済み箇所2箇所のうち、要対策箇所2箇所 要対策箇所2箇所のうち、対策完了0箇所</li> </ul> </li> </ul> <p>※河川構造物の耐震性能照査指針(平成24年2月 水管理・国土保全局治水課)改訂に伴い見直している。</p>	<p>耐震対策については、レベル1対応については実施済みであり、レベル2対応についても堰等の重要構造物を優先し必要な対策を着実に進めている。淀川大堰、瀬田川洗堰については、耐震設計の見直しに伴い、新しい基準に沿った耐震補強を継続して検討していく。</p> <p>今後、残るレベル2対応の点検を早急に完了させ、対策必要箇所を把握し、必要な対策を順次進めていく。</p>

地震・津波対策

【観点】地震対策事業の実施状況

「指標」緊急用河川敷道路の整備内容・延長

【緊急用河川敷道路の整備事例】

【淀川河川事務所】

平成26年度は木津川で約0.4kmの緊急用河川敷道路を整備した。なお、木津川での残延長は約1.4kmとなっている。

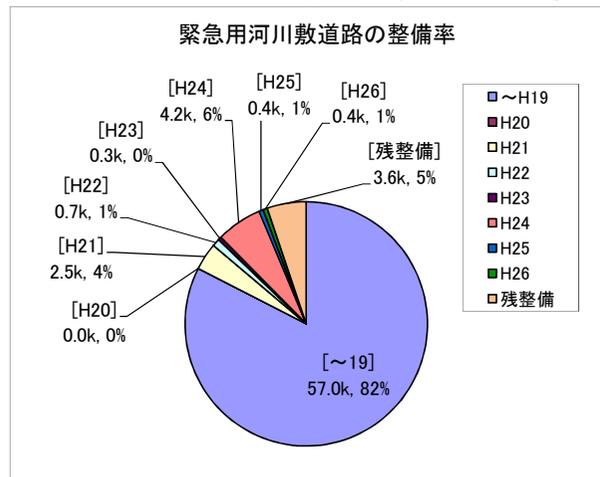
緊急用河川敷道路は地震等による市街地道路の交通混乱時に災害復旧車両の代替輸送路として復旧・救援に要する人員・物資の輸送を目的とした道路である。また、平常時には河川巡視や河川工事などに使用している。



進捗状況

(平成26年度の取組)

平成26年度は、0.4kmの整備を実施しており、緊急用河川敷道路の全体計画69.1kmのうち、平成26年度までで65.5kmを整備済みである。



点検結果

緊急用河川敷道路については、着実に実施している。今後は主要一般道とのアクセスを含め、引き続き整備を進めていく。